

## 平成 30 年（2018 年）外国人客宿泊状況調査（年間集計）について ～自然災害発生や客室供給量増加の環境下、インバウンドが伸長し、客室単価は上昇～

（公社）京都市観光協会及び（公財）京都文化交流コンベンションビューローでは、平成 26 年（2014 年）4 月以降、京都市内の主なホテルの協力を得て、国・地域別の外国人客宿泊状況調査を毎月行っております。このたび、平成 30 年（2018 年）の調査結果（1 月～12 月）がまとまりましたのでお知らせします。

### 1 調査結果のポイント（京都 52 ホテル）

#### 外国人利用割合は 43.9%と過去最高を更新

好調なインバウンド需要を背景に外国人客の利用割合は 43.9%と調査開始以来の最高値を更新した。2017 年に 40.2%と年間数値で初めて 4 割を超えたところであったが、2018 年はそれを 3.7 ポイント上回った。月別では、1 月を除く全ての月で過去最高を更新し、とりわけ 4 月は 52.5%、7 月は 52.1%と、**外国人客が過半数を超える月が 1 年間で 2 ヶ月**となった。[P3・P4 参照]

#### 台湾・香港は地方周遊が進む一方、南欧市場の拡大に期待

外国人客に占める国・地域別割合（構成比）は、中国が 27.7%（前年差 +2.7 ポイント）と 4 人に 1 人以上を占めるマーケットに拡大し、3 年連続で 1 位となった。2 位の台湾は 14.0%（同 ▲3.7 ポイント）に縮小し、3 位のアメリカ（13.0%）との差が僅かとなり、香港も 3.8%（同 ▲1.0 ポイント）に減少した。構成比が低下した台湾と香港の 2 市場については、市場成熟に伴うピーター化及び地方空港への LCC 就航拡大等に伴い、地方周遊が進んでいることなどが背景にあると考えられる。実人数の伸率では、**イタリアが前年比 36.9%増、スペインが同 26.2%増と南欧市場の成長が際立ち**、今後の更なる成長が期待される。[P5・P8 参照]

#### 地震、豪雨、台風など自然災害の影響等により下半期に客室稼働率が低下

2018 年は 6 月の大阪府北部地震、7 月の西日本豪雨、9 月の台風 21 号など自然災害が多く発生したが、外国人客に対する影響は限定的で、宿泊客の実人数において前年比 5.3%伸長した。一方、日本人客への影響は大きく、調査開始以来最大の下げ幅となる同 9.4%減少し、総宿泊客数も前年を 4.4%下回った。これに伴い、**客室稼働率は 86.4%と前年差 1.7 ポイント微減**した。月別でみると、上半期は前年とほぼ同水準で推移していたが、9 月は 82.9%と前年同月を 6.5 ポイント下回る大幅減を記録するなど、下半期に稼働率の前年割れが続いた。[P3・P4 参照]

#### 客室収益指数（RevPAR）は微減するも、客室供給量が増加する中、客室単価（ADR）は上昇

京都市観光協会が提携する STR の調査結果によると、ホテル業界において最も重要視される客室収益指数（RevPAR）における京都の伸率は 0.2%減となった。台風 21 号による関西空港閉鎖（9 月）の影響を大きく受けた大阪は 7.7%減となったが、京都においては成田・羽田の両空港を主なゲートウェイとする欧米豪からの観光客の割合が比較的高いことから、減少幅も限定的であった。

新規ホテルの開業等により、**京都において客室数の供給が増加している中、客室単価（ADR）は前年比 2.1%増**と値崩れせず、成長を維持したことは特筆すべき点といえる。[P11 参照]

※RevPARとは、販売可能客室 1 室あたりの売上を表す数値で、客室総売上額÷販売可能客室数で算出される。

## 2 調査のあらまし

### (1) 概要

外国人宿泊状況をタイムリーに把握できるよう、平成 26 年（2014 年）4 月以降、京都市内の主なホテルの協力を得て、国・地域別の調査（「実人数」「延べ人数」「延べ部屋数」）を毎月実施。※全国で唯一の取組（協会、ビューロー調べ）

なお、本調査における外国人は、日本国籍以外のパスポートを有する人で、ビジネス、観光を問わない。

### (2) 対象ホテル（平成 30 年 12 月現在）

52 施設 11,234 室

※市内ホテルの客室ベースで約 4 割をカバー（協会、ビューロー調べ）

※平成 30 年 11 月調査の 46 ホテルから増加

前年と本年では対象ホテル数・客室数が異なるため、昨年発表の 2017 年数値（36 ホテル）と今回発表の 2017 年数値（52 ホテル）は異なる場合がある。

P11 の客室収益指数（RevPAR）等の数値は、ホテルデータサービス会社 STR（本社：イギリス・ロンドン）からの提供によるもので、上記 52 ホテルとは対象が一部異なる。

### (3) 分析数値

「客室稼働率」「外国人利用割合」は、「延べ部屋数」の集計による。

「外国人宿泊客数」「日本人宿泊客数」「構成比」「伸率」は、日本政府観光局（JNTO）統計や京都観総合調査との比較を行う観点から、「実人数」の集計による。

### (4) その他

「日本全体」については、日本政府観光局（JNTO）発表の「訪日外客数（訪日外国人旅行者数）」を示す。（エリア別の数値は 11 月分まで）「関西」については、法務省発表の出入国管理統計統計表の「港別入国外国人の国籍・地域」における「関西（空港）」の数値を示す。

#### <京都観光総合調査との関連について>

京都市全体の観光動向の把握については、ほぼすべての市内宿泊施設（旅館業法許可施設）を対象とする「京都観光総合調査」（京都市から年 1 回発表）が基本指標となる。当調査は、インバウンドマーケットの傾向を把握するため、京都市内の主なホテルを対象とするサンプル調査であるため、その他ホテルや旅館、簡易宿所、いわゆる「民泊」等に宿泊した外国人客は含まれておらず、訪日外客数（日本全体）との比較等も参考分析という位置づけとなる。

#### <本件に関する問い合わせ先>

公益社団法人京都市観光協会 TEL：075-213-0070

国際誘客推進部 水上、桑田

企画推進部 堀江

# 平成 30 年（2018 年）外国人客宿泊状況調査結果

## 1 宿泊実人数・客室稼働率・外国人利用割合（年間）

2018 年は 6 月の大阪府北部地震、7 月の西日本豪雨、9 月の台風 21 号など自然災害が多く発生したが、京都 52 ホテルにおける外国人客に対する影響は限定的で、宿泊客の実人数において前年比 5.3% 伸長した。一方、日本人客への影響は大きく、調査開始以来最大の下げ幅となる同 9.4% 減少し、総数も前年を 4.4% 下回った。

日本人客が伸び悩む一方、外国人客が増加したことから、年間を通じた外国人客利用割合は前年を 3.7 ポイント上回る 43.9% に達し、調査開始以来、安定したペースでその割合は高まっている。

なお、京都市観光協会の独自ヒアリングによると高価格帯ホテルにおいては、夏季の自然災害発生後も客室稼働率は特段減少しなかった。災害影響をあまり受けなかった欧米豪からの富裕層（成田・羽田経由）が主な顧客であることなどが影響したものと推察される。

表 1 宿泊実人数

|         | 2017 年      | 2018 年      | 伸率    |
|---------|-------------|-------------|-------|
| 日本人宿泊客数 | 2,166,845 人 | 2,062,716 人 | ▲9.4% |
| 外国人宿泊客数 | 1,111,031 人 | 1,229,030 人 | 5.3%  |
| 総宿泊客数   | 3,277,876 人 | 3,291,745 人 | ▲4.4% |

※伸率については 2017 年と 2018 年の総営業部屋数の差異を補正反映している（P27 参照）

表 2 宿泊実人数・伸率の推移

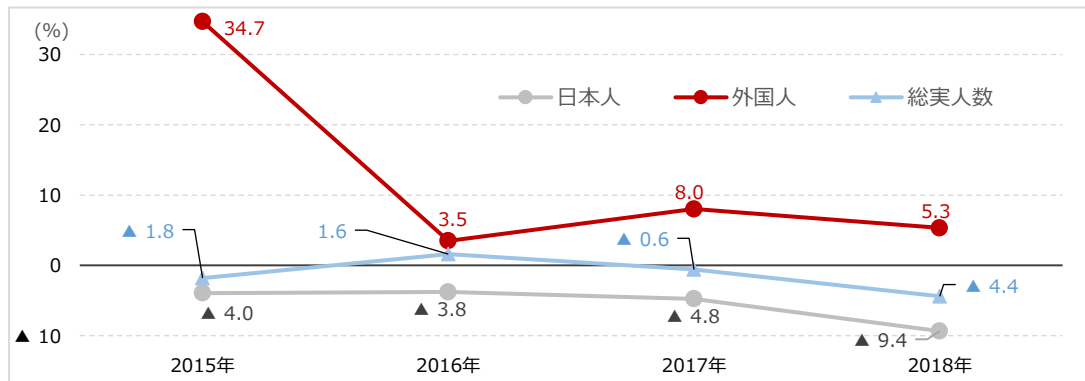
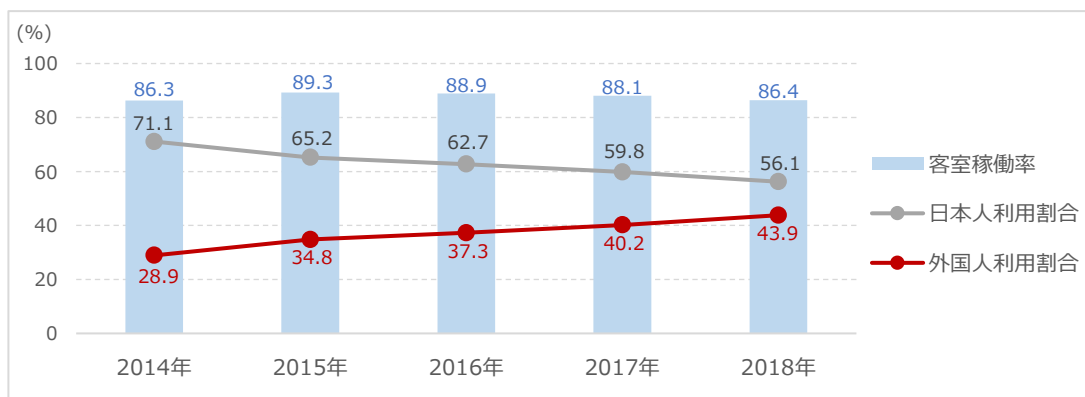


表 3 客室稼働率・利用割合の推移



## 2 客室稼働率・外国人利用割合（月別）

上半期は前年とほぼ同水準で推移していたが、夏季に発生した自然災害の影響で9月に82.9%（前年同月差▲6.5ポイント）と大幅減を記録するなど、下半期に稼働率の前年割れが続いた。

年間を通した月別の繁閑差は、前年の19.0ポイントから20.7ポイントと拡大し、調査開始以来の縮小傾向から反転した。これは、例年最も稼働率が低い1月において、2017年は春節期間が重なった一方（1/27-2/2）、2018年は2月のみ（2/15-2/21）であったことが主な原因だと考えられる。

表 4 2018年 客室稼働率の月別推移

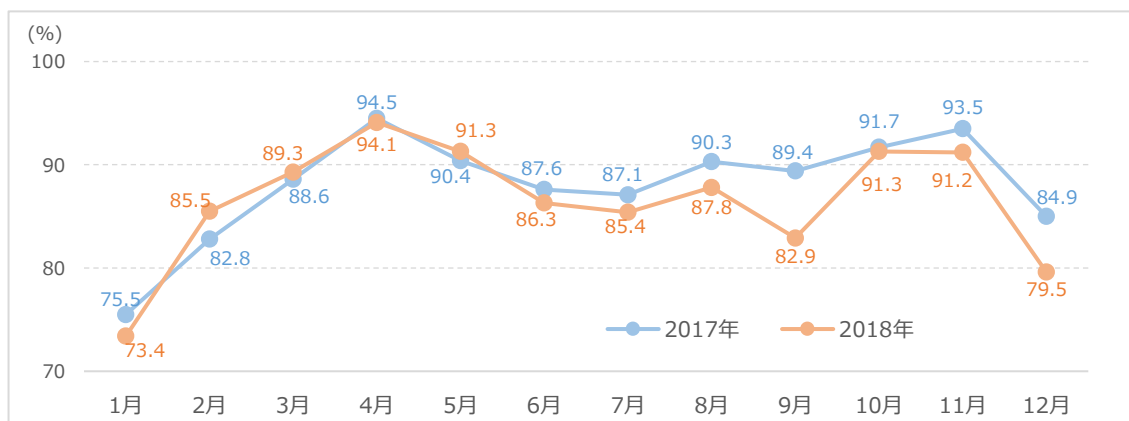
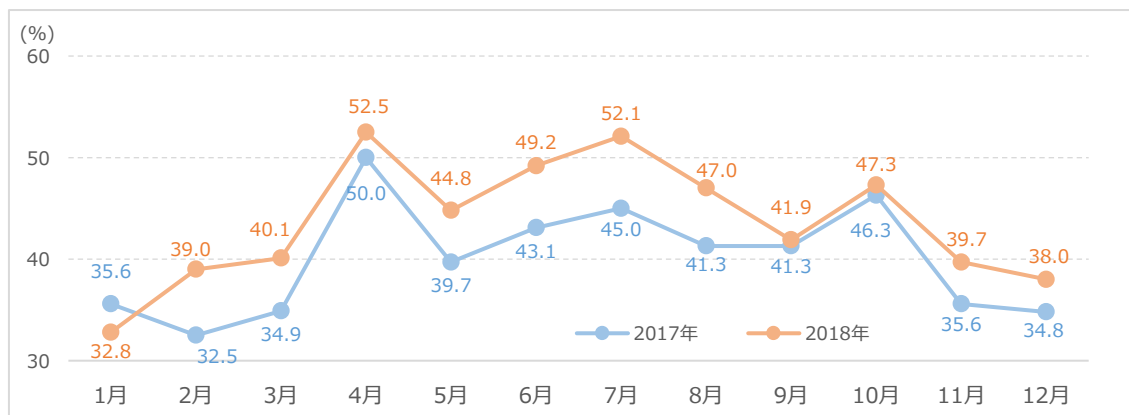


表 5 月別繁閑差

|       | 最繁忙月            | 最閑散月       | 月別繁閑差    |
|-------|-----------------|------------|----------|
| 2014年 | 95.3% (11月)     | 69.3% (1月) | 26.0ポイント |
| 2015年 | 94.0% (4月・11月)  | 68.6% (1月) | 25.4ポイント |
| 2016年 | 93.1% (10月・11月) | 71.4% (1月) | 21.7ポイント |
| 2017年 | 94.5% (4月)      | 75.5% (1月) | 19.0ポイント |
| 2018年 | 94.1% (4月)      | 73.4% (1月) | 20.7ポイント |

外国人利用割合の月別推移においても、春節期間の変動の影響を受け、1月のみ前年割れとなったが、1月を除く全ての月で前年を上回るとともに過去最高を更新した。とりわけ4月は52.5%（前年同月差+2.5ポイント）と調査開始以来の最高値を記録し、7月は、西日本豪雨の影響で日本人客が大きく減少した反動で前年差7.1ポイント増の52.1%と同じく過半数を超過した。

表 6 2018年 外国人利用割合の月別推移



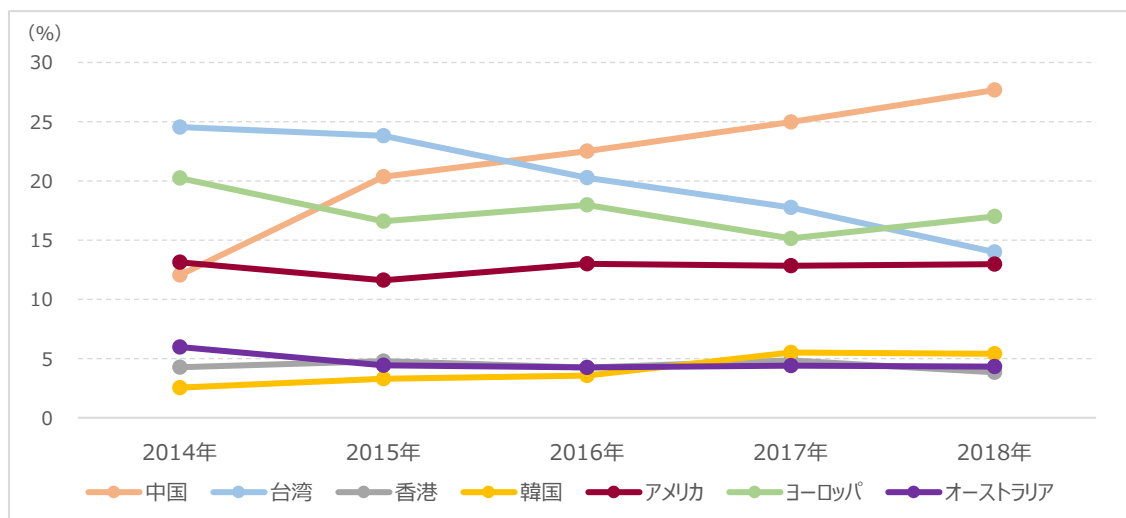
### 3 構成比（年間）

外国人客に占める国・地域別割合（構成比）は、中国が27.7%（前年差+2.7ポイント）と4人に1人以上を占めるマーケットに拡大し、3年連続で1位となった。2位の台湾は14.0%（前年差▲3.7ポイント）と縮小し、3位のアメリカの13.0%との差が僅かとなった。香港も前年差▲1.0ポイントと縮小した。構成比が減少した台湾と香港の2市場については、訪日客は微増傾向にあることから、市場成熟に伴うピーター化及び地方空港へのLCC就航拡大等に伴い、地方周遊が進んでいることなどが背景にあると考えられる。

表7 外国人宿泊客に占める国・地域別割合（構成比）

| 2018年 |         |       |          | 2017年 |         |       |
|-------|---------|-------|----------|-------|---------|-------|
|       | 国・地域名   | 構成比   | 前年差      |       | 国・地域名   | 構成比   |
| 1     | 中国      | 27.7% | 2.7ポイント  | 1     | 中国      | 25.0% |
| 2     | 台湾      | 14.0% | ▲3.7ポイント | 2     | 台湾      | 17.7% |
| 3     | アメリカ    | 13.0% | 0.2ポイント  | 3     | アメリカ    | 12.8% |
| 4     | 韓国      | 5.4%  | ▲0.1ポイント | 4     | 韓国      | 5.5%  |
| 5     | オーストラリア | 4.3%  | ▲0.1ポイント | 5     | 香港      | 4.8%  |
| 6     | 香港      | 3.8%  | ▲1.0ポイント | 6     | オーストラリア | 4.4%  |
| 7     | スペイン    | 3.4%  | 0.6ポイント  | 7     | スペイン    | 2.8%  |
| 8     | イギリス    | 2.9%  | 0.2ポイント  | 8     | イギリス    | 2.7%  |
| 9     | フランス    | 2.5%  | 0.2ポイント  | 9     | フランス    | 2.3%  |
| 10    | イタリア    | 2.5%  | 0.6ポイント  | 10    | シンガポール  | 2.1%  |

表8 国・エリア別の年次推移（構成比）



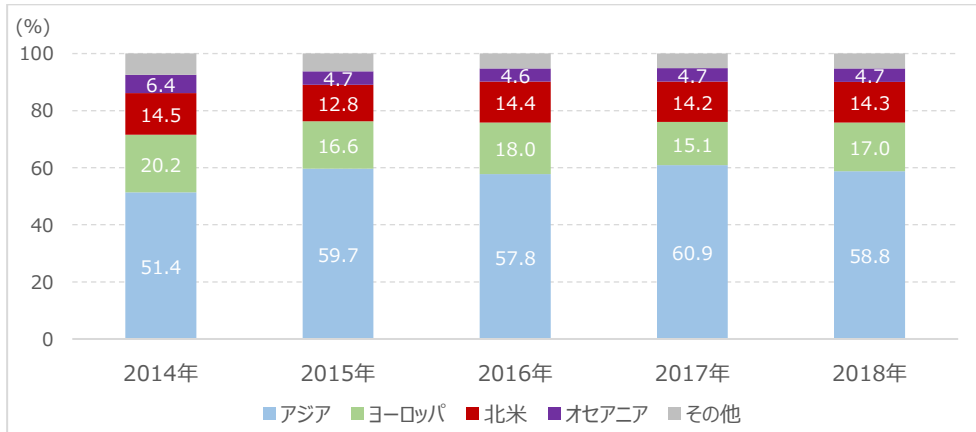
【参考 1】 構成比（年間） <日本全体、関空との比較>

アジア客が占める割合が、2018 年の日本全体において 85.7%を占めたのに対し、京都 52 ホテルでは 58.8%と比較的低く、一方、欧米豪の割合は日本全体で 13.9%であったのに対し、京都 52 ホテルでは約 2.6 倍の 36.0%を占めた。

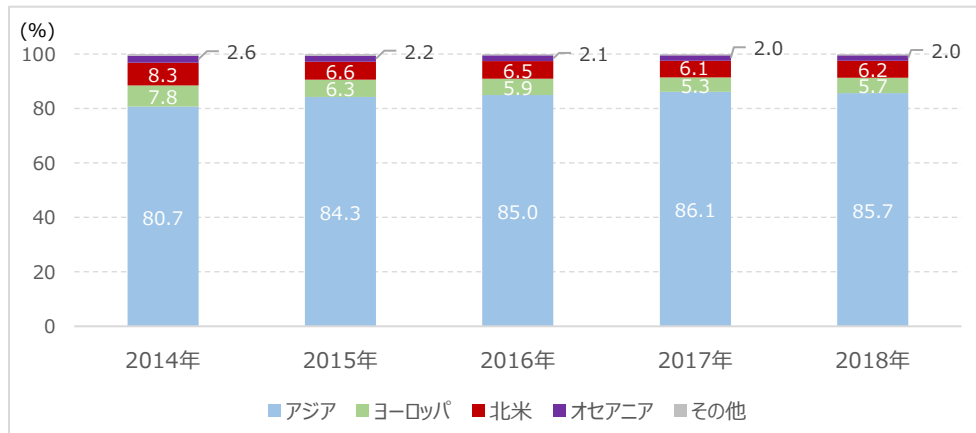
なお、このアジア対欧米豪の割合の差は、京都に最も近い国際空港である関西空港と比較するとさらに拡大する。これは、関空がアジアのゲートウェイとしての役割が高まる一方、欧米豪は、就航路線が多い成田・羽田の両空港から新幹線等を利用して京都を訪問していることを裏付けているといえ、この傾向は続いている。

表 9 京都・日本全体・関空の構成比（エリア別）

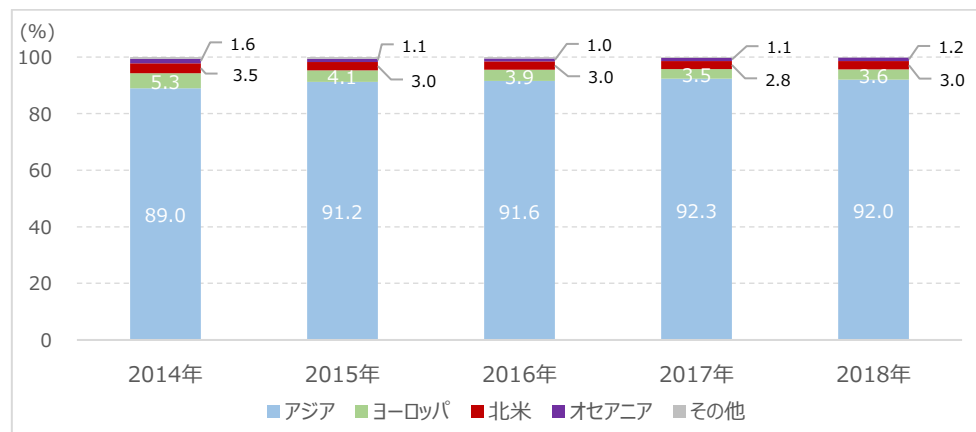
京都 52 ホテル



日本全体



関空

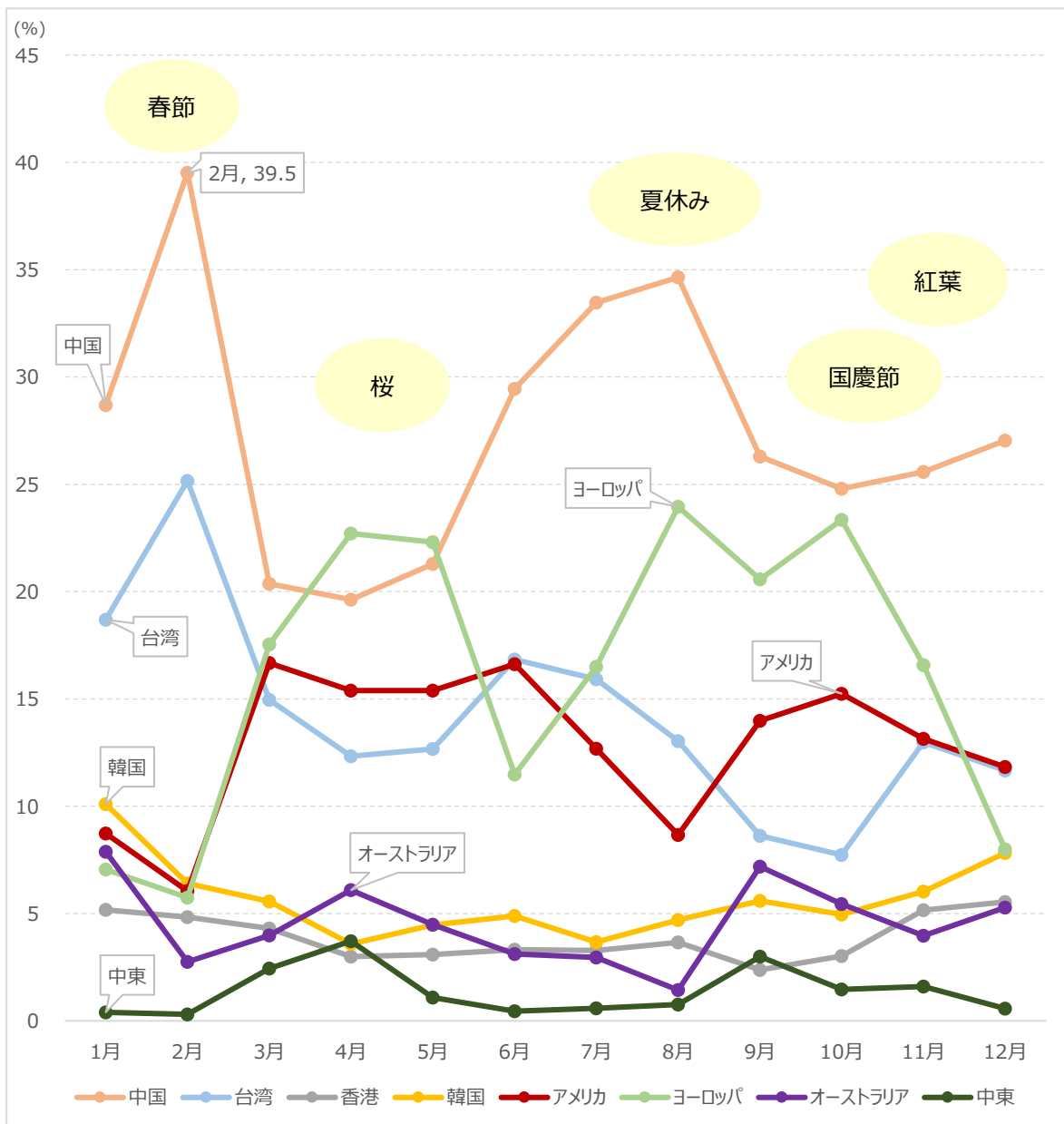


#### 4 構成比（月別）

2017 年は、4 月においてアメリカが市場別構成比で 1 位を記録したが、2018 年は中国が年間を通して 1 位を堅持した。特に、春節休暇の影響もあり、2 月の構成比は 39.5%と、40%に届く勢いとなった。なお、この数値は、これまで一つの市場が占めるシェアとして単月で最も高かった台湾の 37.7%（2015 年 2 月）を上回る調査開始以来の最高値であった。

アメリカは、年間数値では台湾を下回る 3 位であったが、3 月～5 月、9 月～12 月と、年間の半数を超える 7 ヶ月において、台湾を上回る 2 位に位置した。

表 10 2018 年 京都 52 ホテル・構成比（国・地域・エリア別）



## 5 実人数伸率（年間）

実人数の伸率では、イタリアが前年比 36.9%増、スペインが同 26.2%増と南欧市場の成長が際立ち、フランス、イギリスもそれぞれ 15.5%増、12.7%増と二けた成長を記録した。

一方、香港は同 16.5%減、台湾が 17.0%減と大きく減少した。これらの 2 市場の減少については、市場成熟に伴うピーター化及び地方空港への LCC 就航拡大等に伴い、地方周遊が進んでいることなどが背景にあると考えられる。

表 11 2017 年－2018 年 京都 52 ホテル・伸率（国・地域別）

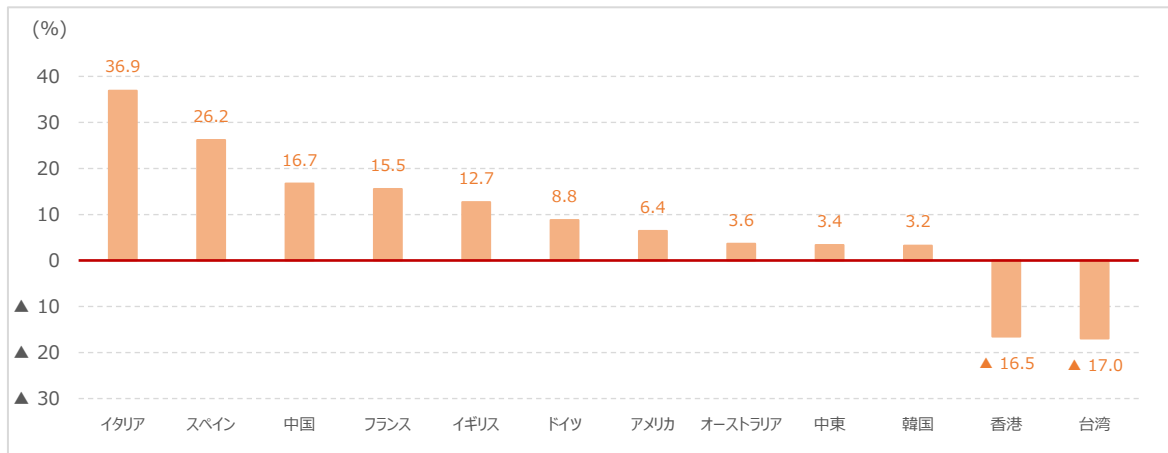
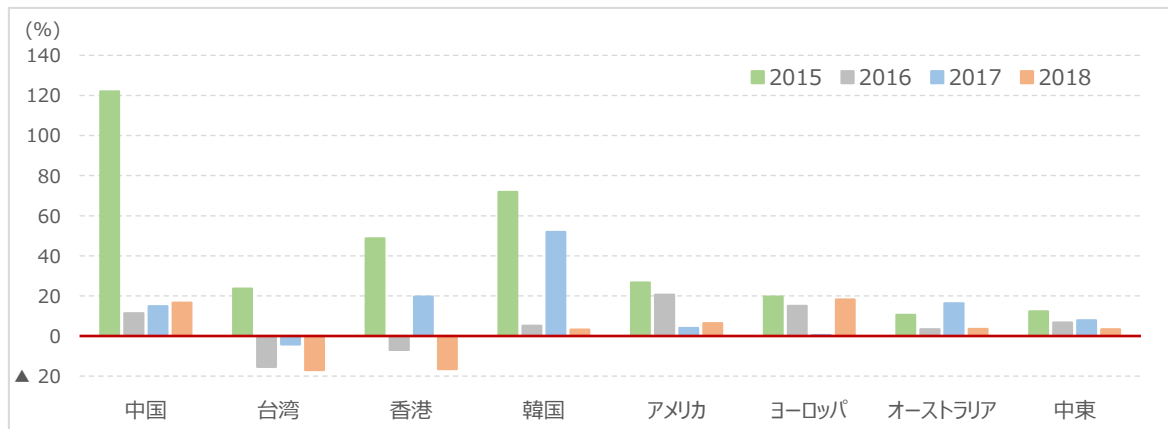


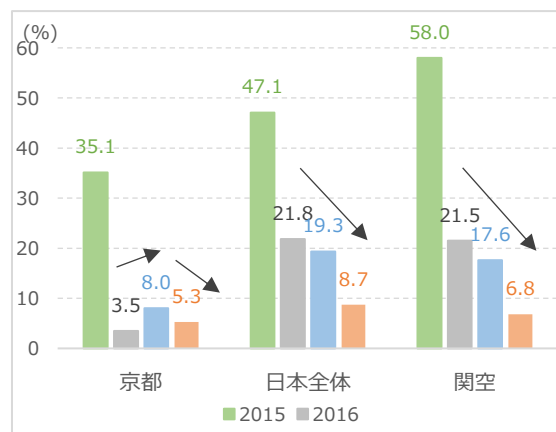
表 12 京都 52 ホテル・伸率（国・地域・エリア別）



### 【参考 2】実人数伸率（年間）＜日本全体、関空との比較＞

2016 年から 2017 年にかけては、日本全体や関空の伸び率が鈍化している一方で、京都の成長率は加速したが（前年差 +4.5 ポイント）、2017 年から 2018 年にかけては京都も鈍化（前年差 ▲2.7 ポイント）した。ただし、日本全体は前年差 ▲10.6 ポイント、関空は前年差 ▲10.8 ポイントと大きく鈍化していることと比べると伸率の低下は限定的で、京都は比較的成長を維持していると分析できる。

表 13 京都 52 ホテル・日本全体・関空 伸率

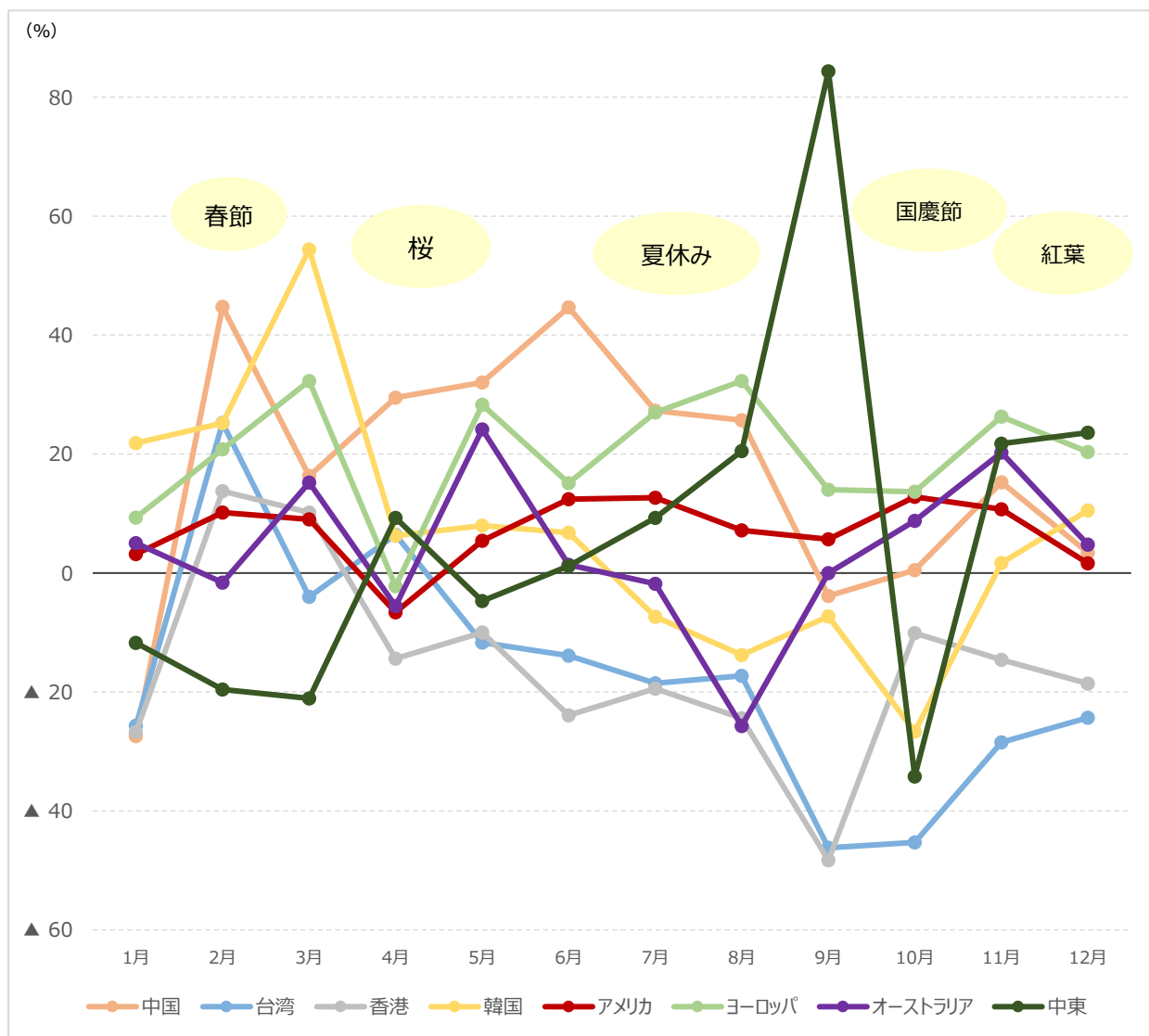


## 6 実人数伸率（月別）（国・地域・エリア別）

中国は1月と9月を除いてプラス成長が続き、とくに上半期に高い成長率を記録した。1月の減少は春節期間が変わったこと、9月の減少は台風21号による関西空港閉鎖等が影響したと考えられる。また、台湾、香港、韓国においても、夏季の自然災害の影響を受け、下半期にマイナス成長が続いた。

一方で、アメリカ、ヨーロッパは4月を除いて安定的に成長を示した。中東が9月に80%を超える成長を示したことについては、ユダヤ教の三大祭のうちの一つである仮庵の祭り（スコット）の休暇時期が、2017年は10月上旬であったのに対し、2018年は9月下旬であったことが影響していると考えられる。

表 14 2017年－2018年 京都52ホテル・伸率（国・地域別）



【参考3】客室単価等の他都市比較（年間）（出典：2018STR）

京都市観光協会が提携するSTRの調査結果によると、ホテル業界において最も重要視される客室収益指数（RevPAR）における京都の伸率は0.2%減となった。台風21号による関西空港閉鎖（9月）の影響を大きく受けた大阪は7.7%減となったが、京都においては成田・羽田の両空港を主なゲートウェイとする欧米豪からの観光客の割合が比較的高い等ことから、減少幅も限定的であった。

新規ホテルの開業等により、京都において客室数の供給が増加している中、客室単価（ADR）は前年比2.1%増と値崩れせず、成長維持したことは特筆すべき点といえる。海外主要都市との比較では、パリやシンガポールは京都より低稼働である一方、客室単価（ADR）は高水準を維持し、結果として高い客室収益指数（RevPAR）を実現しており、京都が今後参考とすべき一つの都市像と思われる。

なお、京都市観光協会の独自ヒアリングによると、京都52ホテルにおける下半期の客室予約状況は、災害影響もあり前年同期と比べ減少傾向で推移していたが、結果としての宿泊実人数は前年とほぼ同じ水準を保った。しかしながら、客室単価は僅かに下回ったことから、災害発生に伴うキャンセルによる空室を埋めるため、価格を下げる動きが生じたと考えられる。ただし、高価格帯ホテルにおいては、災害発生後も客室単価や客室稼働率への影響は少なかった。

表 15 2018年（年間） 主要都市別 OCC・ADR・RevPAR （出典：STR）

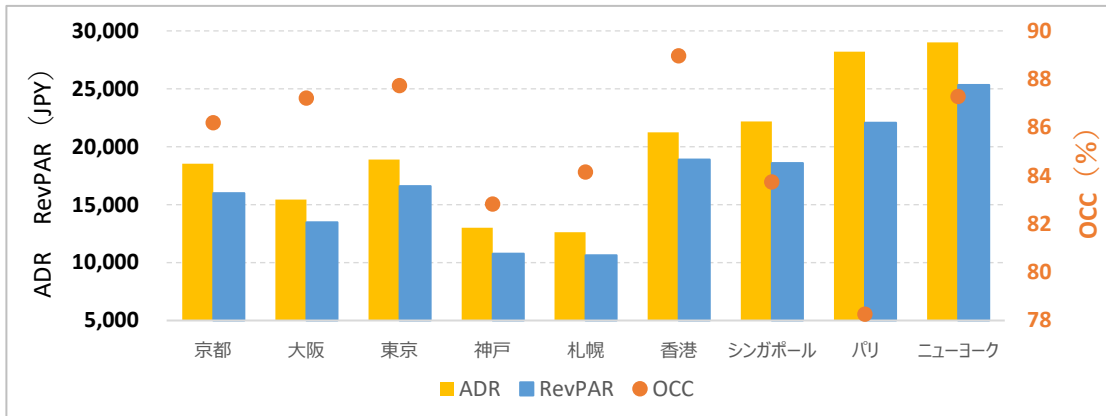


表 16 2018年（年間） 主要都市別 OCC・ADR・RevPAR 伸率 （出典：STR）

| 都市     | OCC伸率 (%) | ADR伸率 (%) | RevPAR伸率 (%) |
|--------|-----------|-----------|--------------|
| 京都     | ▲ 2.2     | 2.1       | ▲ 0.2        |
| 大阪     | ▲ 3.5     | ▲ 4.3     | ▲ 7.7        |
| 東京     | 1.3       | 3.5       | 4.8          |
| 神戸     | ▲ 0.2     | 3.8       | 3.6          |
| 札幌     | ▲ 3.8     | 4.4       | 0.4          |
| 香港     | 0.7       | 7.5       | 8.3          |
| シンガポール | 3.1       | 1.0       | 4.2          |
| パリ     | 3.7       | 12.9      | 17.1         |
| ニューヨーク | 0.8       | 1.4       | 2.2          |

OCC Occupancy Ratio の略で客室稼働率を示す。  
 ADR Average Daily Rate の略で平均客室単価を示す。  
 RevPAR REVENUE Per Available Rooms の略で客室収益指標を示す。販売可能客室数あたりの客室売上の数値で、客室稼働率（OCC）×平均客室単価（ADR）で算出される。

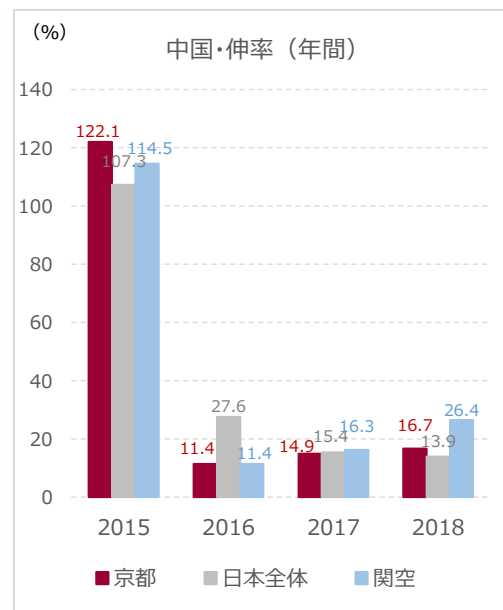
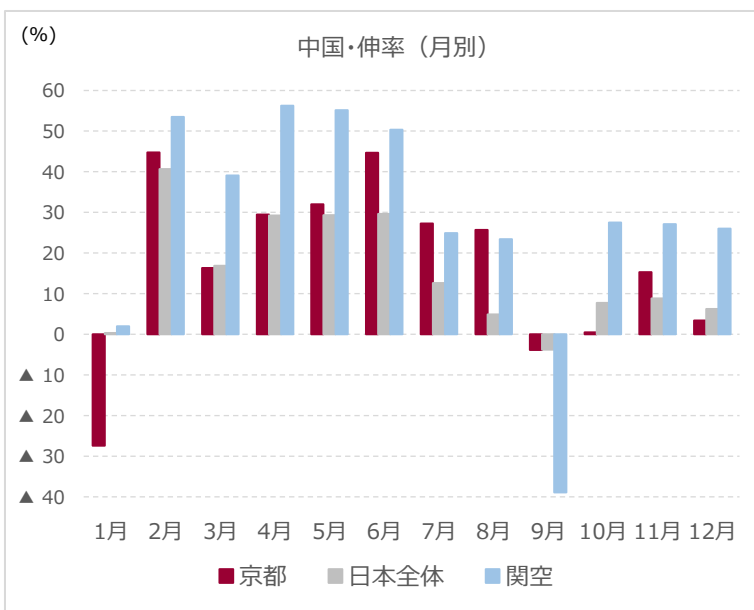
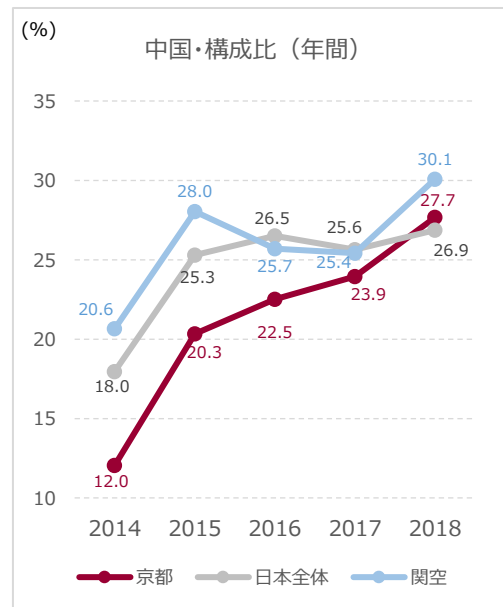
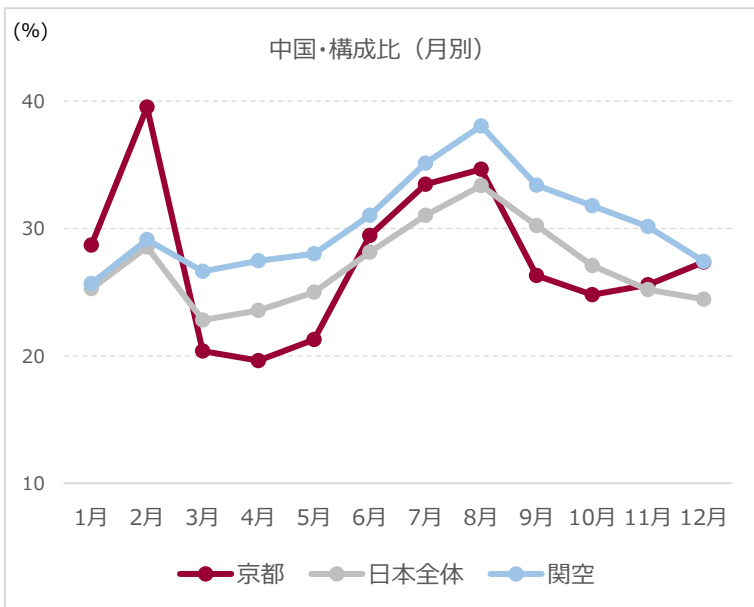
当データにおけるSTRの書面による許諾を伴わない再出版もしくは二次使用は固く禁じられています。報道・メディア媒体への掲載については、（公社）京都市観光協会（担当：桑田）までお問合せください。

【参考4】 国・地域別 <日本全体、関空との比較>

1 中国

京都 52 ホテルにおける中国のシェア（構成比）は年々拡大しており、2018 年は 27.7% に達し、調査開始以来初めて日本全体におけるシェア（26.9%）を上回った。日本全体が前年差 1.3 ポイント増であったのに対し、京都に最も近い国際空港である関空が同 4.7 ポイント増と大きく伸びたことが背景にあると考えられる。

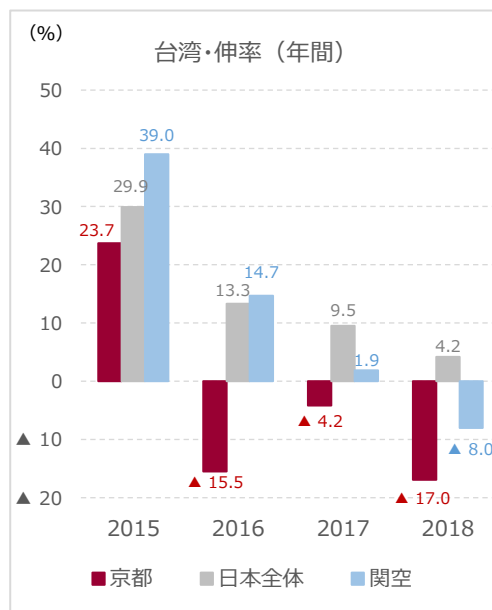
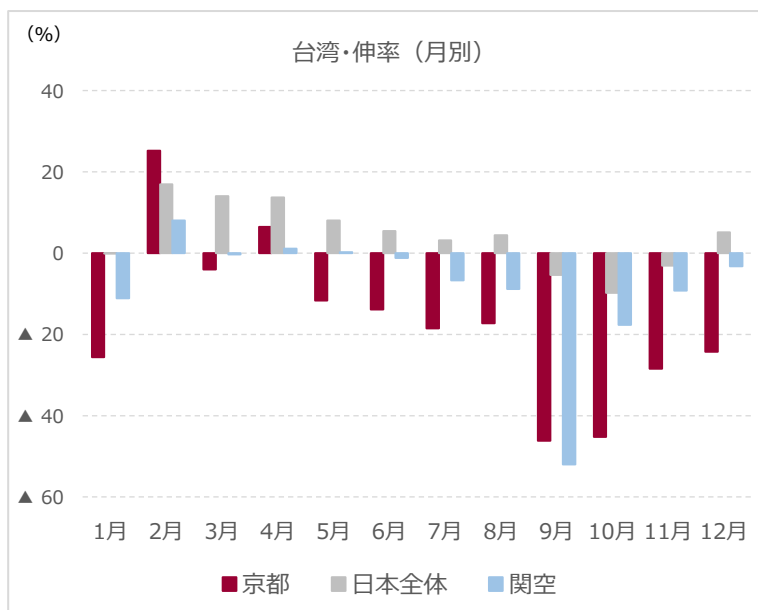
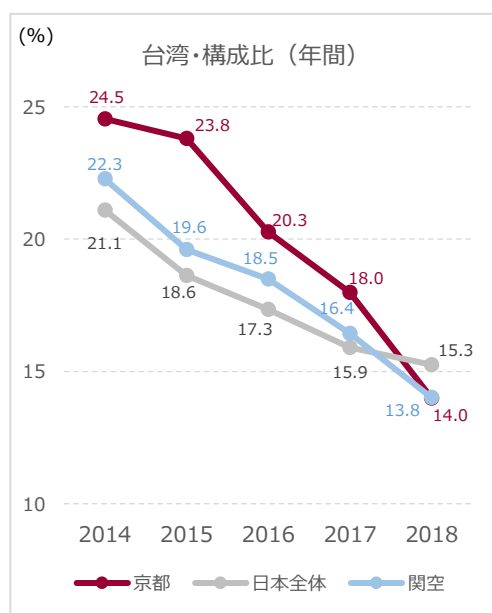
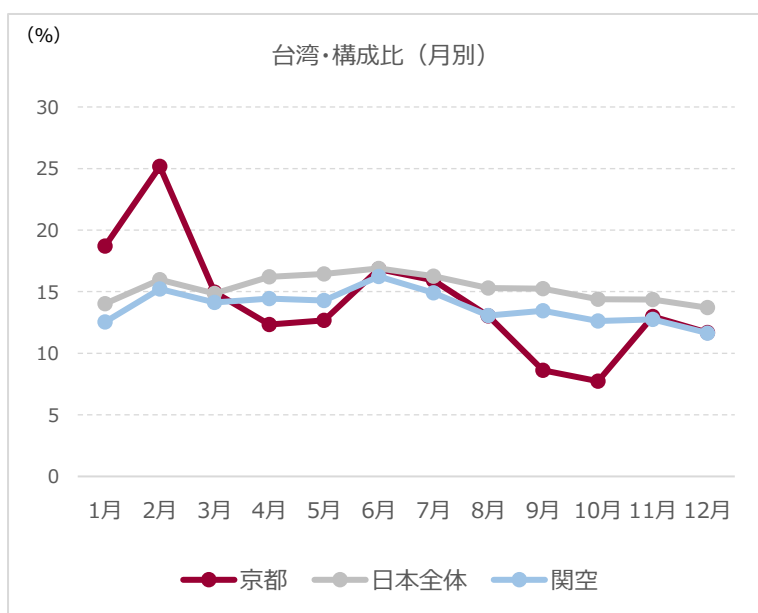
実人数の伸率を月別に見ると、京都 52 ホテルにおいて 1 月が 3 割近いマイナスとなっているが、これは 2017 年は春節期間が 1 月と 2 月に重なった一方（1/27-2/2）、2018 年は 2 月のみ（2/15-2/21）であったことが主な原因だと考えられる。9 月は台風 21 号の影響で関空の伸率が約 4 割減と大幅にマイナスとなっているが、京都 52 ホテルでは小幅な減少に留まった。これは、成田・羽田をゲートウェイとする、いわゆるゴールデンルートを周遊する団体旅行客が京都において一定割合宿泊していることを示していると考えられる。



## 2 台湾

京都 52 ホテルにおける台湾の構成比は年々縮小しているが、これは関空も訪日全体においても同様の傾向である。一方、伸率については、日本全体が前年比 4.2%増とプラス成長なのに対し、京都 52 ホテルは同 17.0%減、関空は同 8.0%減とマイナス成長している。これは、リピーター化の進展と LCC の地方就航に伴い、日本全国に分散化が進んでいることが背景にあると考えられる。

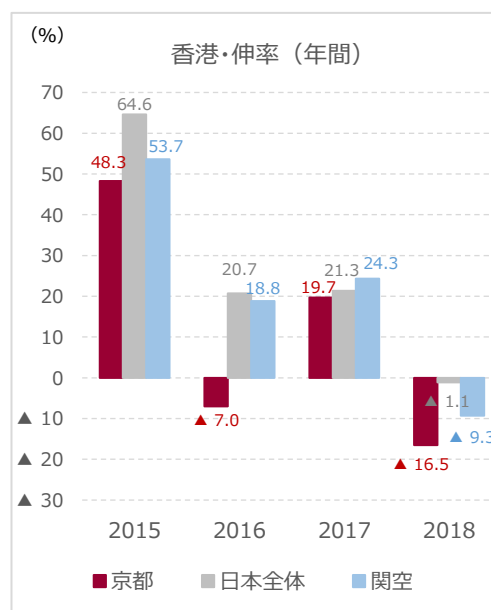
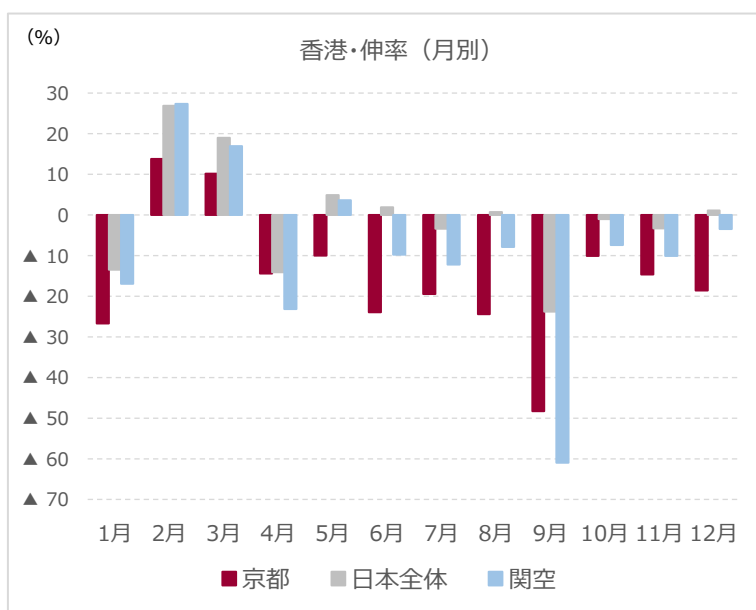
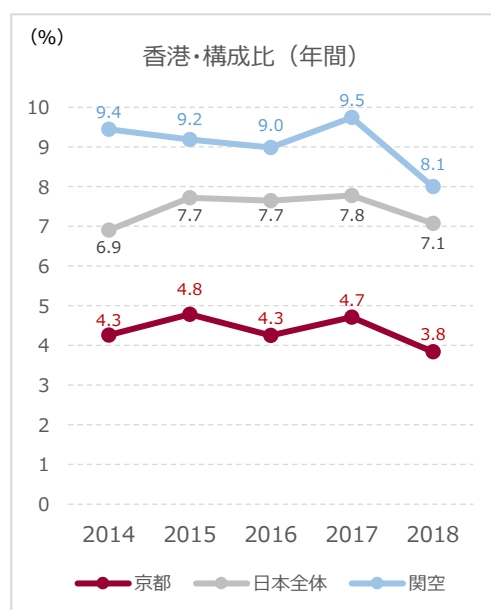
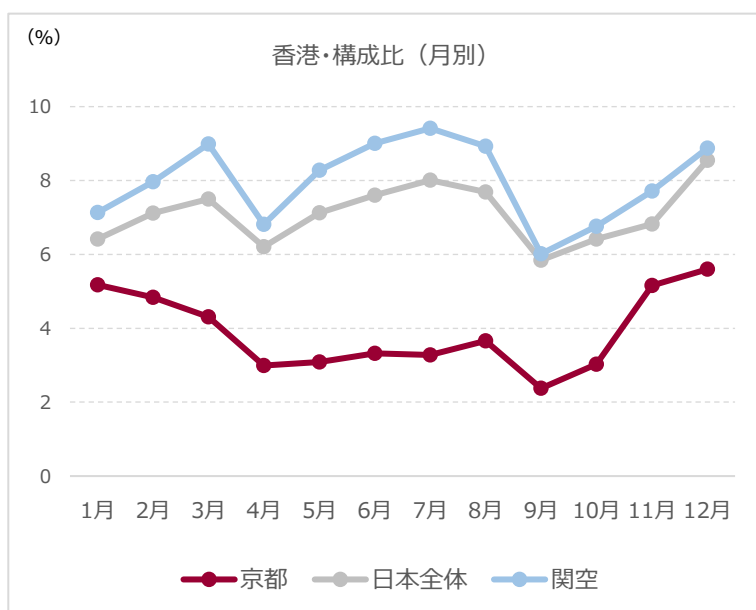
構成比を月別にみると、2 月の春節において、京都 52 ホテルは約 25%のシェアを示した一方、春・秋において、京都 52 ホテルは 10%を下回り、日本全体や関空より数値が低くなっている。これは、桜や紅葉の時期は、京都において特定の国・地域の枠を越え、世界各地から多くの観光客が来訪していることを示しているといえよう。



### 3 香港

京都 52 ホテルにおける香港の構成比は、年間を通じて日本全体や関空と比べて小さい。また、伸率についても、前年比 16.5%減と日本（1.1%減）、関空（9.3%減）を上回る減少幅となった。これは、台湾同様にリピーター化の進展と LCC の地方就航に伴い、日本全国に分散化が進んでいることが背景にあると考えられる。

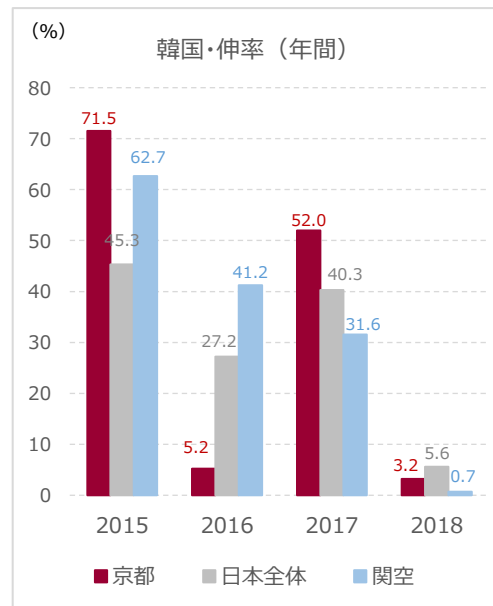
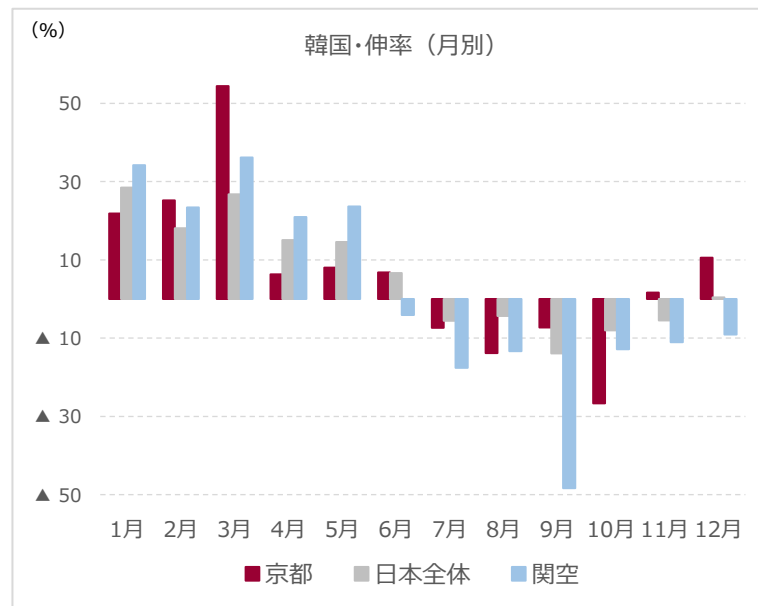
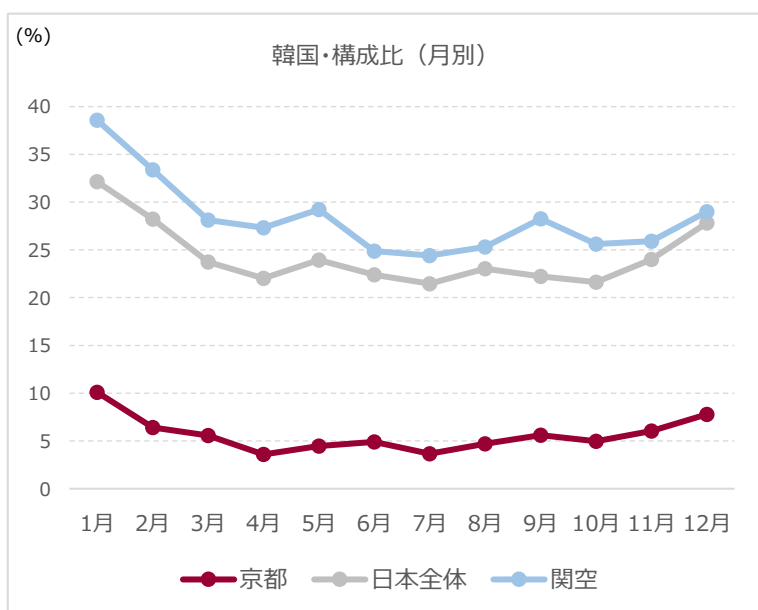
しかしながら、京都 52 ホテルの 2 月と 3 月の伸率はプラス成長となった。2 月は春節のタイミングによる影響だと考えられるが、3 月は 2017 年は 4 月中旬からであったイースター休暇が 2018 年は 3 月末からとなったことなどによるものと考えられる。



#### 4 韓国

京都 52 ホテルにおける韓国のシェアは、日本全体や関西と比べると少ないものの、年々拡大傾向にある。特に、2018 年において日本全体と関西でシェアが減少したにも関わらず、京都 52 ホテルにおいては拡大したことは注目に値する。実人数の伸率は、前年比 52.0%増と大幅に成長した 2017 年と比べると、2018 年は、その反動で同 3.2%増と小幅な成長に留まった。

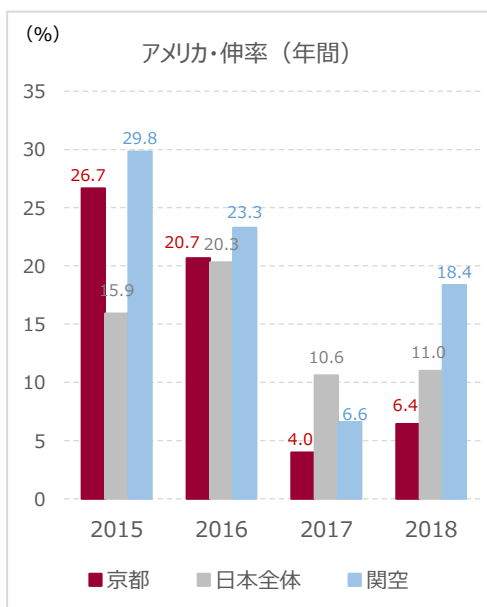
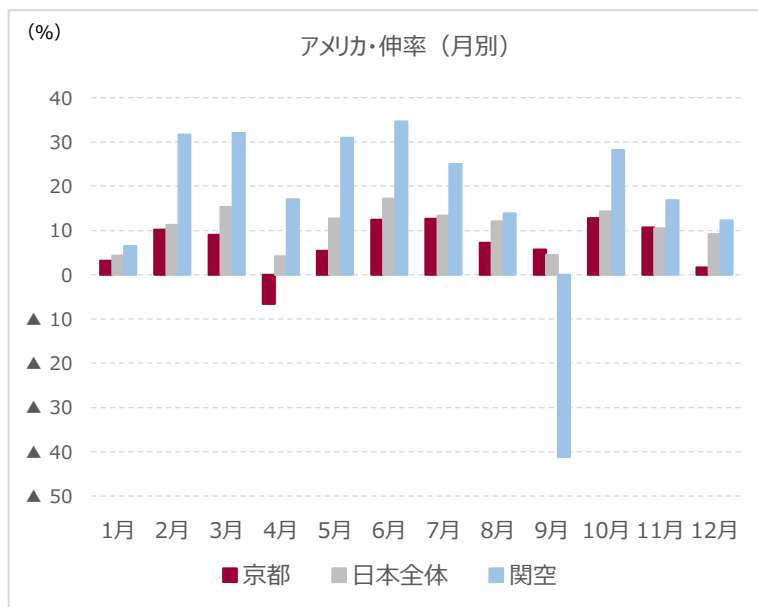
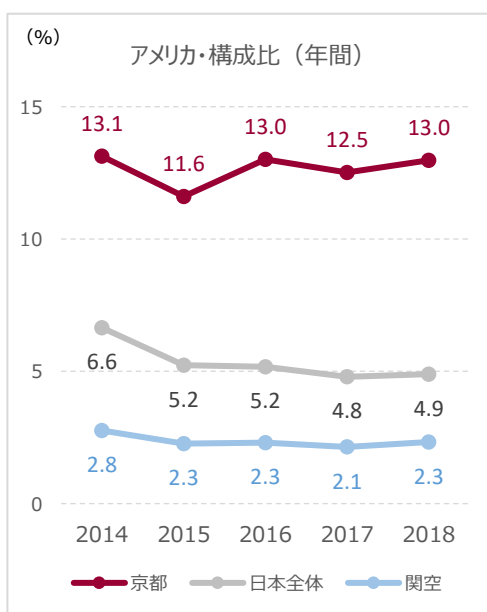
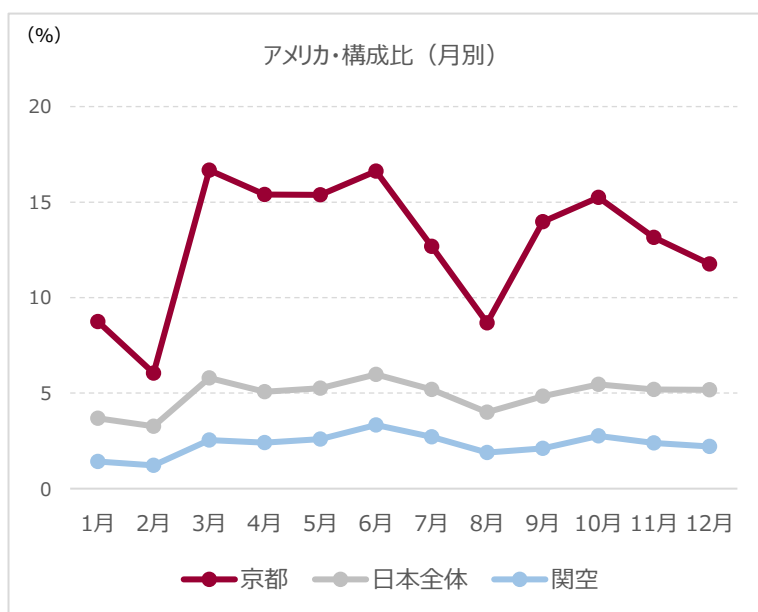
月別にみると、京都 52 ホテルの構成比は 1 年を通じ 5%前後で推移しつつも、伸率は自然災害の影響等により、下半期でマイナス成長が目立った。台風 21 号が発生した 9 月において、京都 52 ホテルの影響が微減で済んだことについては、そもそも、関西利用の韓国人観光客において京都での宿泊割合が低く、京都において宿泊する場合においても、52 ホテルよりも低廉なゲストハウス需要が高い傾向にあることが背景にあると考えられる。



## 5 アメリカ

京都 52 ホテルにおけるアメリカのシェア（構成比）は、日本全体や関空と比べ引き続き高い水準を維持しており、月別にみても全ての月で上回った。特に、3月から6月の春季は、日本全体や関空を大きく上回るシェアを示した。

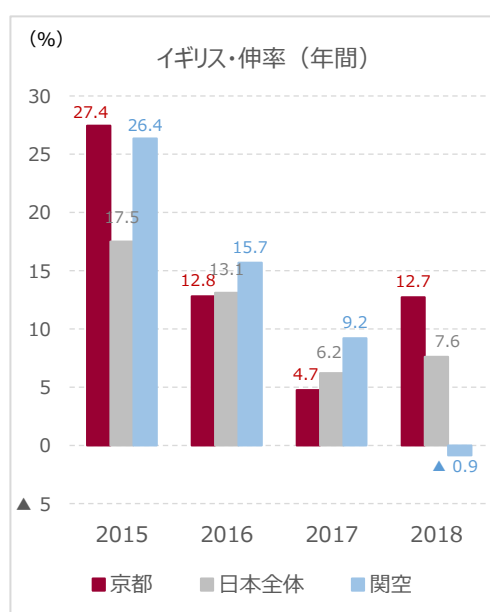
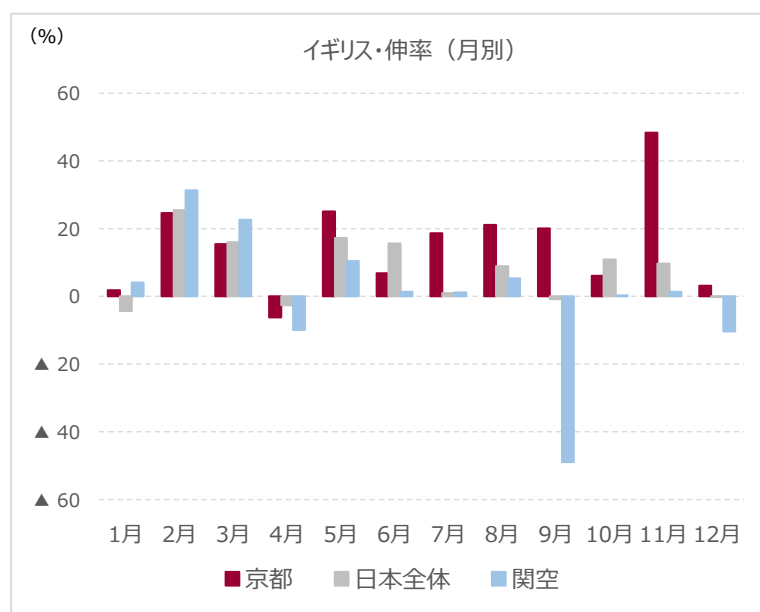
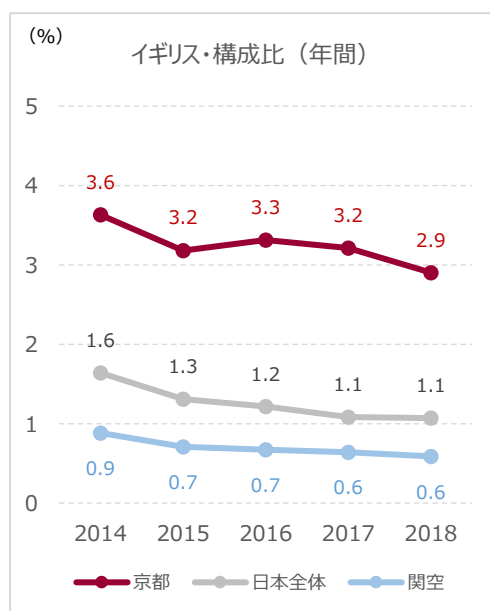
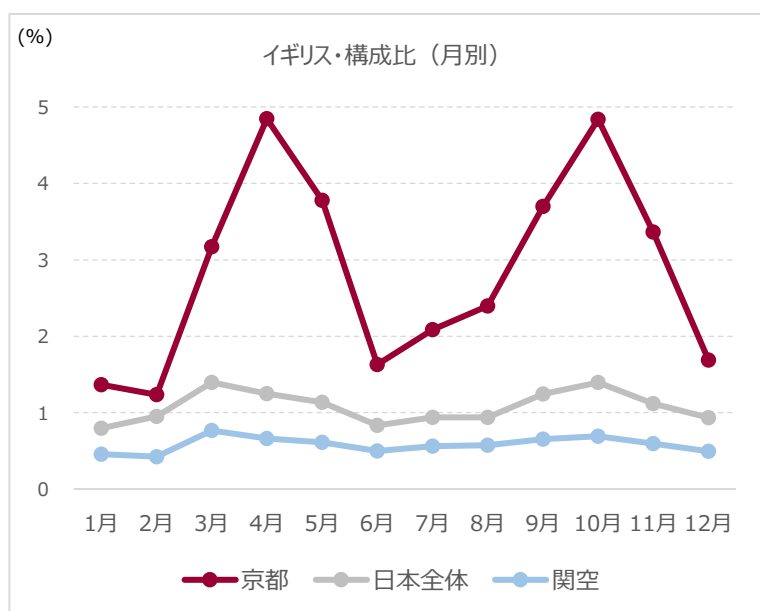
実人数の伸率は、京都 52 ホテルにおいて、前年を2.4ポイント上回る6.4%増と、前年に鈍化した勢いが回復している。月別では4月のみマイナス成長となったものの、1年を通じて安定した成長となった。4月については、2017年は4月中旬からであったイースター休暇が2018年は3月末からとなったことなどによるものと考えられる。また、台風21号が発生した9月において、一時閉鎖となった関空が4割を超える減少を経験したのに対し、成田・羽田経由での来訪が多い京都 52 ホテルの影響は限定的で微増を示した。



## 6 イギリス

京都 52 ホテルにおけるイギリスの構成比は年間を通して、日本全体や関空を上回り、特に春（3～5月）と秋（9～11月）にそのシェアが大きくなっており、人気の高い季節に需要が集中する市場であるといえる。

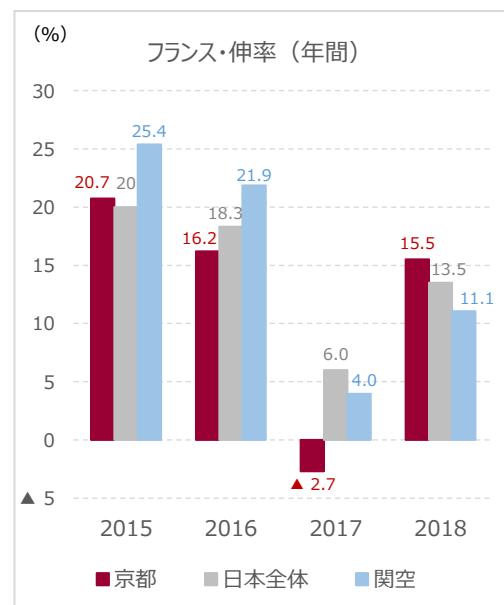
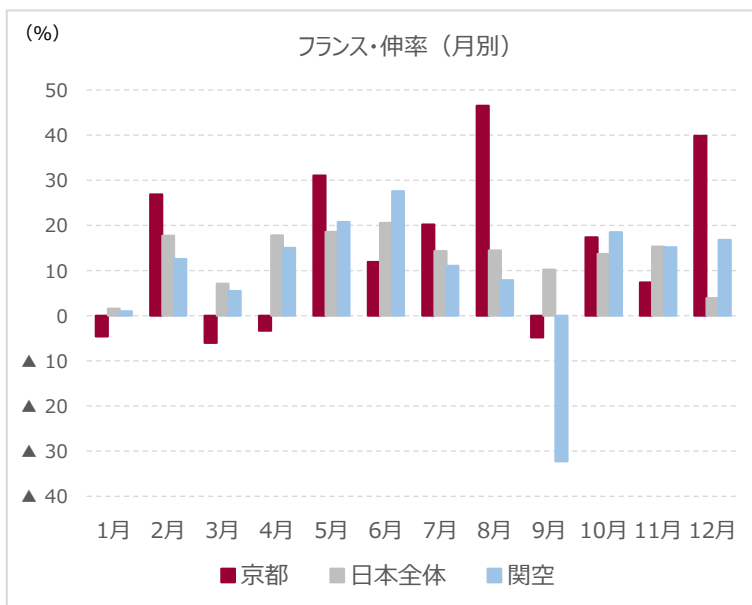
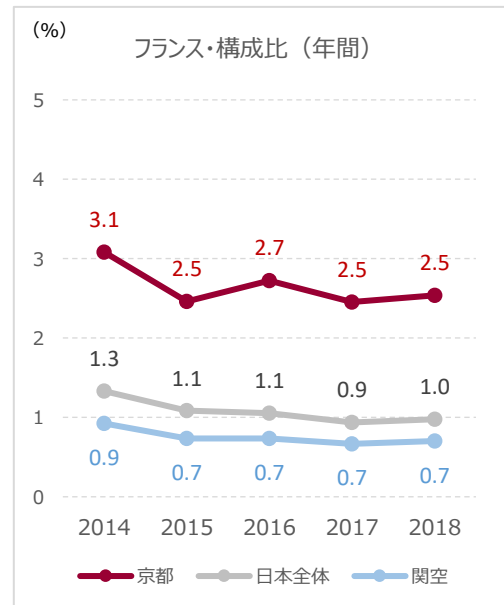
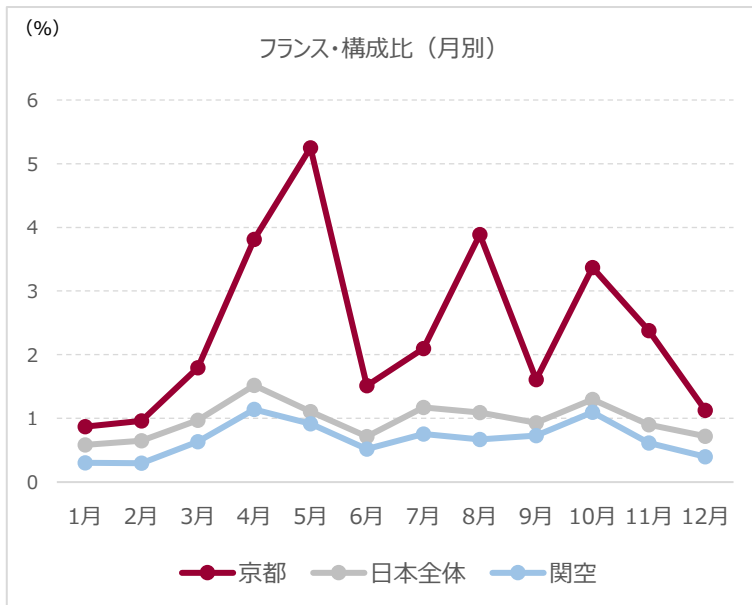
実人数の伸率は前年を8.0ポイント上回る12.7%増と大きく伸長し、昨年、EU 離脱等による情勢不安等を背景に鈍化した勢いが大きく回復している。月別ではアメリカと同様、イースター休暇の変動により減少した4月を除きプラス成長となり、とりわけ11月は前年比約50%増の成長を示した。



## 7 フランス

京都 52 ホテルにおけるフランスの構成比は、年間を通じて、日本全体、関空を上回り、伸率においても前年比 15.5%増を示し、日本全体（同 13.5%増）、関空（同 11.1%増）を超える伸びを示した。特に、5月、8月、10月に京都 52 ホテルのシェアが高く、8月は伸率でも 50%近い勢いを示した。

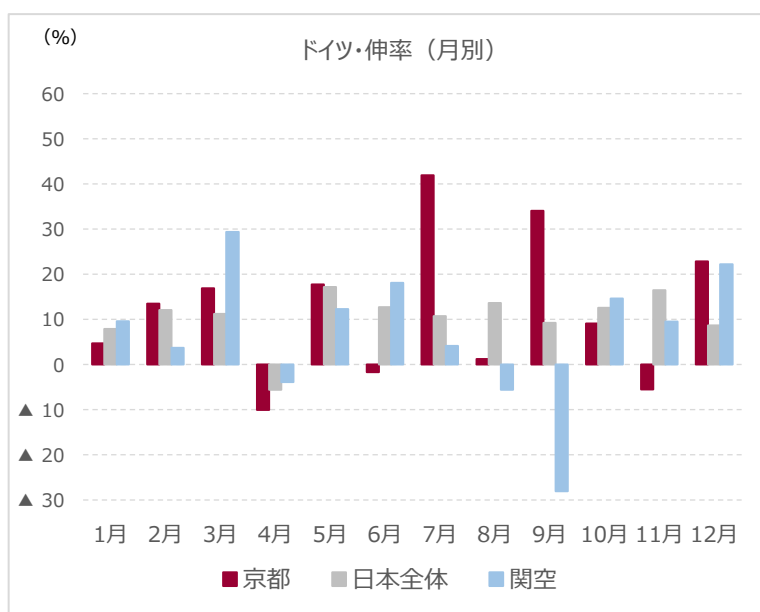
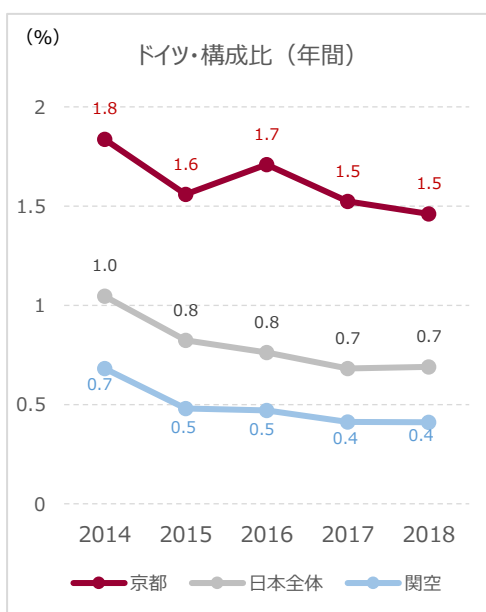
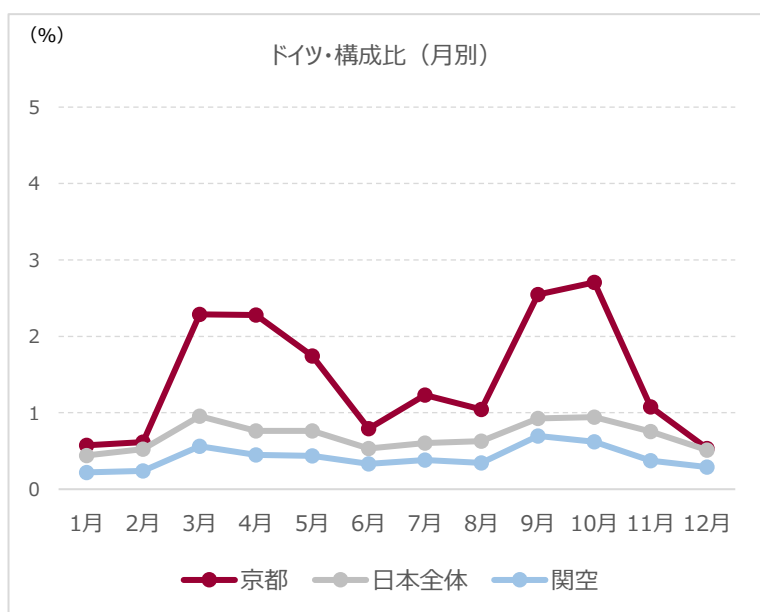
実人数の伸率は、京都 52 ホテルにおいて 2017 年に 2.7%減のマイナス成長を記録したが、2018 年は前年比 15.5%増と大きく反転し、日本全体（同 13.5%増）や関空（同 11.1%増）の成長率を上回った。



## 8 ドイツ

他のヨーロッパ諸国同様、京都 52 ホテルにおけるドイツの構成比は日本全体や関西よりも高く推移しているが、その差はあまり大きくない。一般的にドイツ人はビーチリゾート等で休暇を過ごすニーズが高いことも背景にあると考えられる。こうした中、月別では、イギリスと同様、春（3～5月）と秋（9～10月）に構成比が高まる。4月はイースター休暇、5月は祝日が多いため、長期休暇先として京都が一定選ばれていると考えられる。

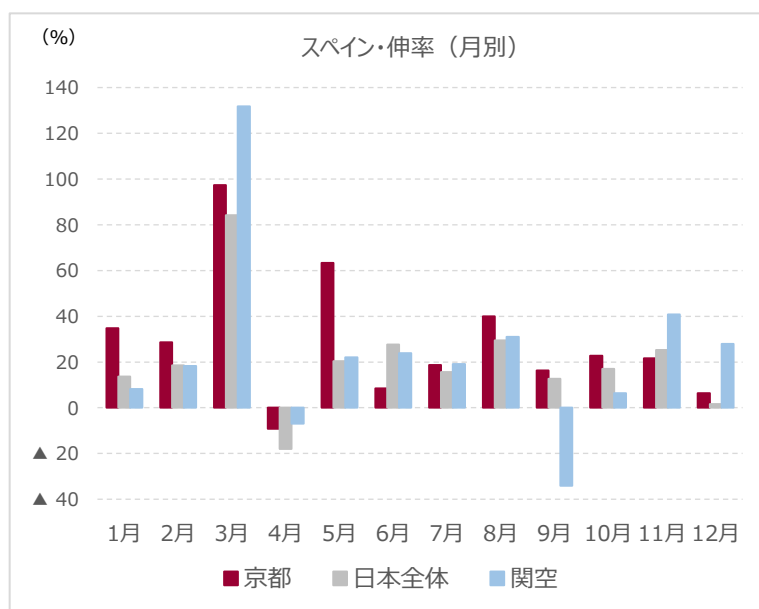
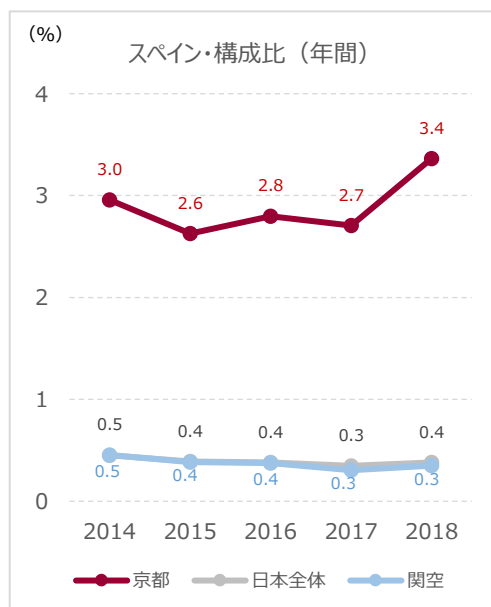
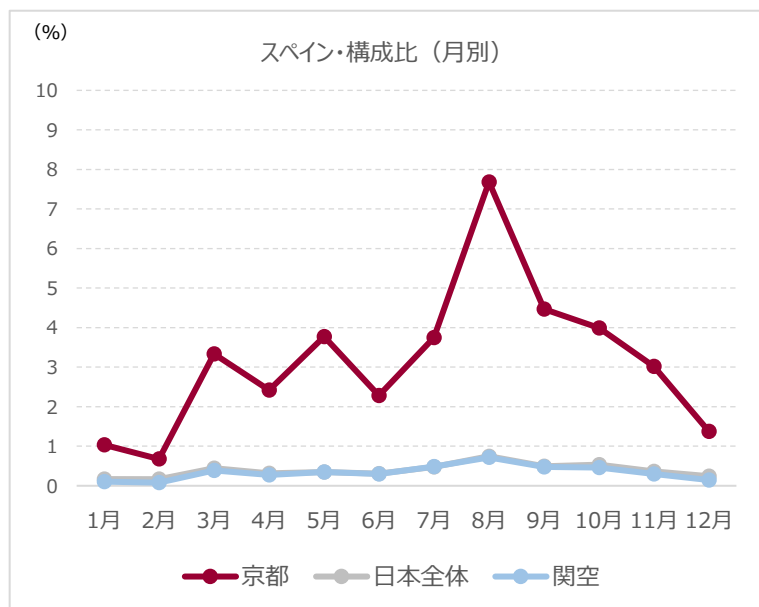
実人数の伸率は、2017年 3.7%減のマイナス成長を記録したが、2018年は前年比 8.8%増と大きく反転した。月別にみると、7月と9月が大きく成長しており、比較的シェアが少なかったバカンスシーズンの需要が高まる兆しとも考えられる。



## 9 スペイン

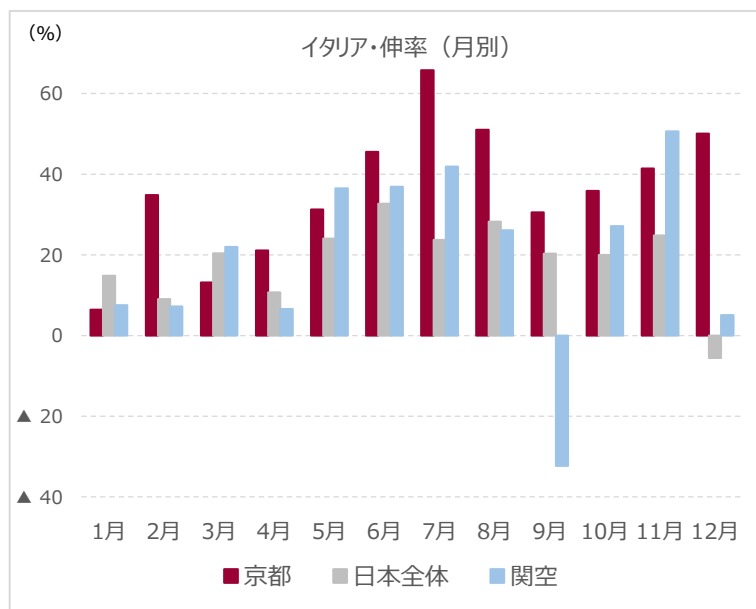
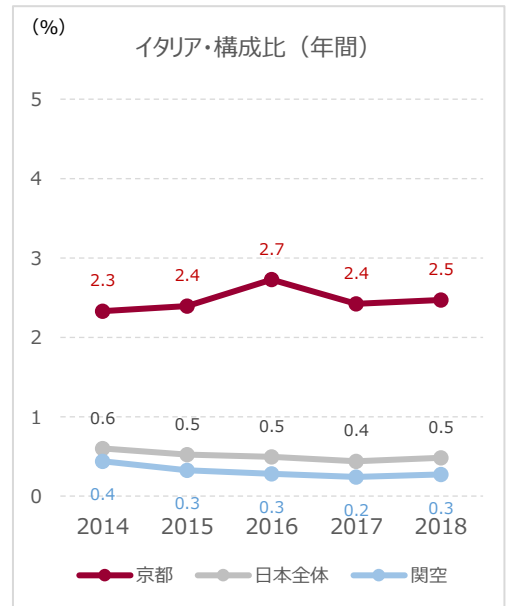
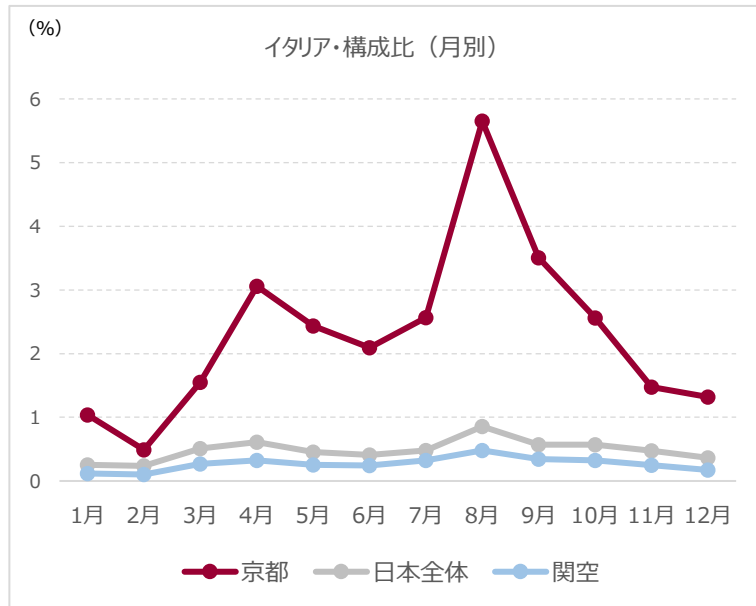
京都 52 ホテルにおけるスペインの実人数は、2018 年において日本全体及び関西の伸率 19.1%を上回る 26.2%の成長を示し、構成率も前年差 0.7 ポイント増の 3.4%と調査開始以来の最高値を記録した。

月別にみると、8月のバカンスシーズンの構成比が著しく高く、春や秋に需要が集まる他の欧米諸国とは異なる傾向を示している。また、イースター休暇の変動により減少した4月を除き、すべての月でプラス成長となり、とりわけ3月は約2倍増と記録的な伸びを示したことから、今後は8月だけでなく桜の時期の需要も高まることも期待したい。



## 10 イタリア

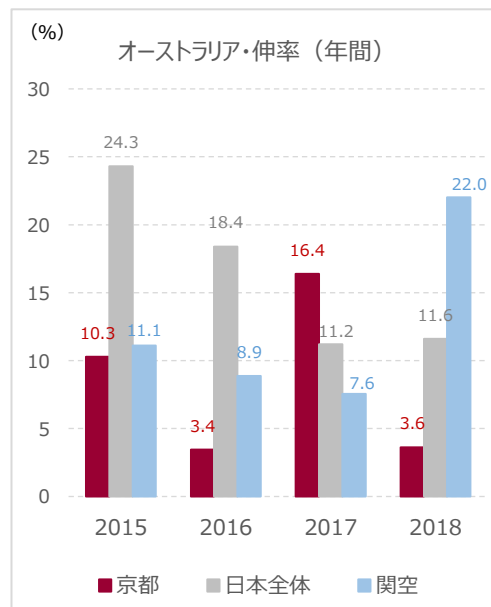
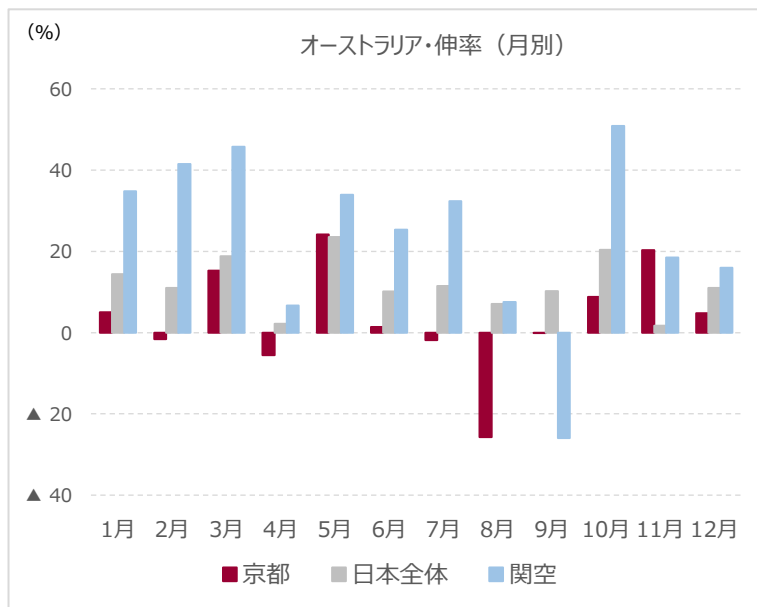
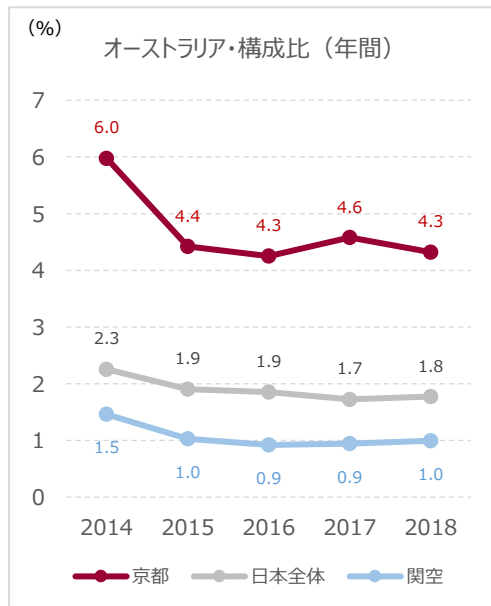
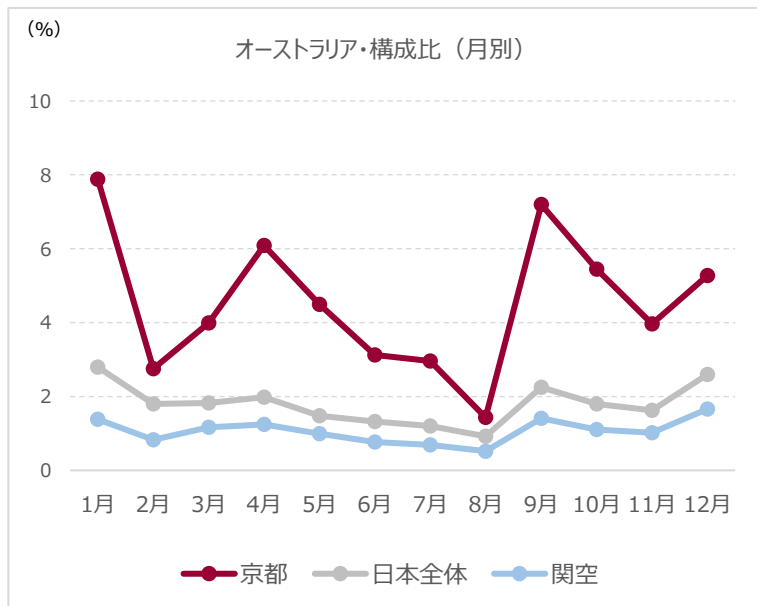
京都 52 ホテルにおけるイタリアの伸率は、2017 年に 4.0%減のマイナス成長を示した反動もあって、2018 年は 36.9%増の成長を示した。この数値は、日本全体（19.2%増）、関西（19.5%増）を大きく上回るもので、2018 年の市場別伸率で最高値を記録した。スペイン同様、バカンスシーズンの 8 月において構成比が大きく伸び、月別の伸率もすべての月でプラス成長を記録した。引き続き夏場の需要拡大が期待される。



## 11 オーストラリア

京都 52 ホテルにおけるオーストラリアの構成比は、年間を通じて、日本全体、関西を上回った一方、伸率は、前年比 3.6%増と、日本全体（同 11.6%増）、関西（22.0%増）を下回った。月別では、とくに学校の長期休暇期間である1月、4月、9月におけるシェアが高い。

月別の伸率は、8月において2割を超える減少を示し、同月は構成率においても2%未満と大きく低下した。

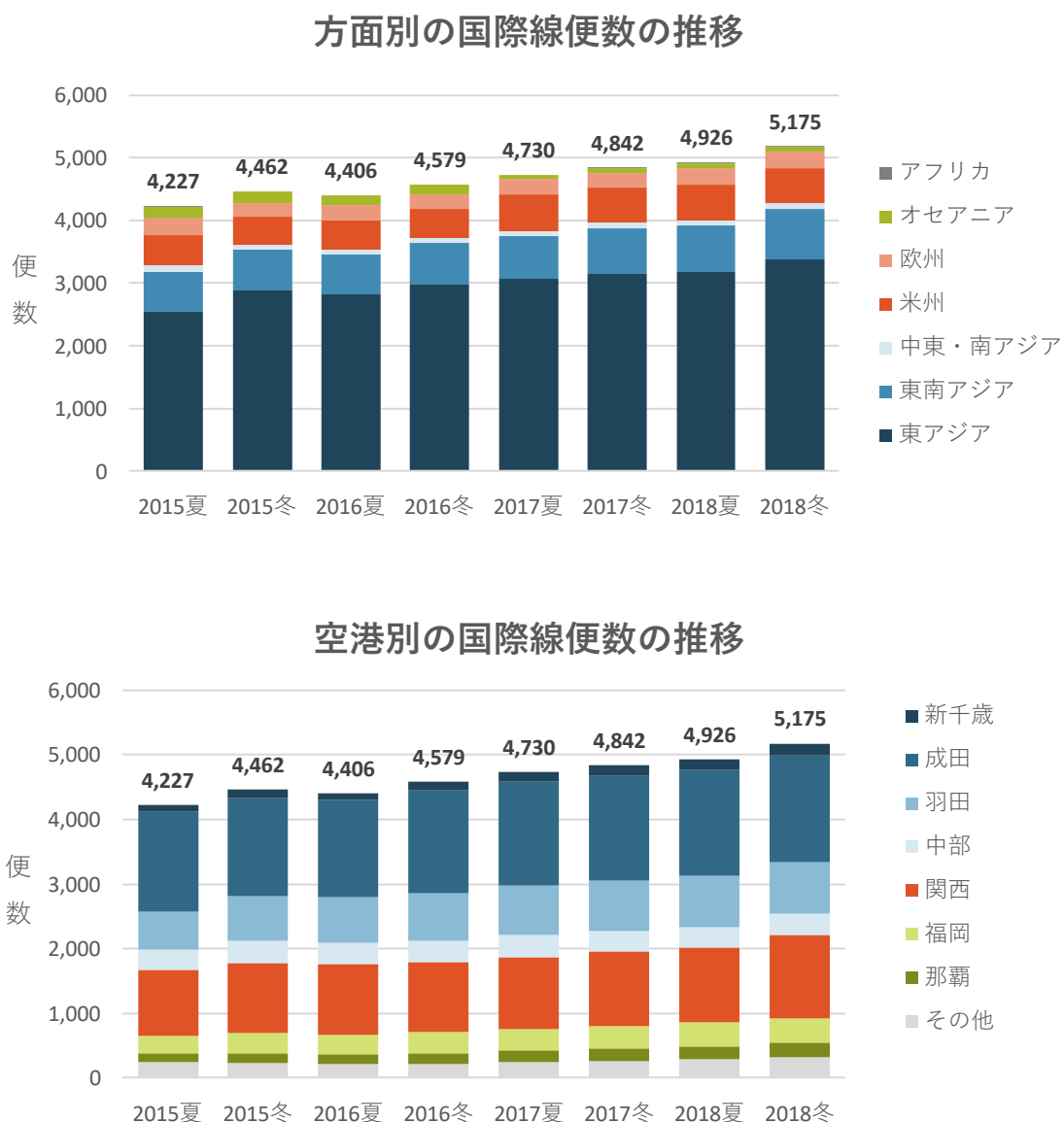


## 【参考5】国際線定期便就航状況

国際線定期便の便数は増加傾向が続いており、とくに2018年の冬ダイヤは前年差333便増（前年比+6.9%）と大幅に増便となった。このうち233便が東アジア路線となっており、LCCをはじめとする近距離圏の輸送力が拡大している。

空港別に見ると、関西空港が前年差134便増（前年比+10.4%）と大きく増便している。とくに、米州からの路線は、成田空港が前年差15便減、中部空港が同7便減と減らすなか、関西空港は21便増と増加していることから、路線が関西空港へシフトしているといえる。また、福岡空港や那覇空港も空港の規模の割には大きく伸ばしており、西日本路線が活性化しているといえる。このことから、これまでの首都圏から関西方面へ移動するようなゴールデンルートだけでなく、様々な方面から京都を訪れるパターンが増えていくことも考えられる。

表 17 国際線便数の推移



出所：国土交通省 国際線就航状況をもとに集計

表 18 路線別の国際線便数と前年差

| 2018冬<br>ダイヤ | 東<br>アジア | 東南<br>アジア | 米州  | 欧州  | オセアニ<br>ア | 中東<br>南アジア | アフリカ | 総計    | 前年<br>同期差 | 東<br>アジア | 東南<br>アジア | 米州  | 欧州 | オセアニ<br>ア | 中東<br>南アジア | アフリカ | 総計  |
|--------------|----------|-----------|-----|-----|-----------|------------|------|-------|-----------|----------|-----------|-----|----|-----------|------------|------|-----|
| 全国           | 3,373    | 812       | 559 | 261 | 75        | 90         | 5    | 5,175 | 全国        | 233      | 70        | -4  | 20 | -1        | 11         | 4    | 333 |
| 新千歳          | 157      | 22        | 3   | 4   | 0         | 1          | 0    | 187   | 新千歳       | 10       | 10        | -2  | 0  | 0         | 1          | 0    | 19  |
| 成田           | 714      | 343       | 351 | 128 | 51        | 60         | 5    | 1,651 | 成田        | 19       | 9         | -15 | 11 | 0         | 3          | 4    | 30  |
| 羽田           | 399      | 175       | 98  | 90  | 14        | 15         | 0    | 790   | 羽田        | 8        | 7         | 0   | 3  | -3        | 0          | 0    | 15  |
| 中部           | 233      | 68        | 23  | 11  | 0         | 5          | 0    | 340   | 中部        | 6        | 7         | -7  | 3  | 0         | 5          | 0    | 14  |
| 関西           | 1,013    | 158       | 72  | 28  | 10        | 10         | 0    | 1,291 | 関西        | 72       | 32        | 21  | 4  | 2         | 3          | 0    | 134 |
| 福岡           | 326      | 34        | 12  | 0   | 0         | 0          | 0    | 372   | 福岡        | 23       | 3         | 1   | -1 | 0         | 0          | 0    | 26  |
| 那覇           | 220      | 10        | 0   | 0   | 0         | 0          | 0    | 230   | 那覇        | 40       | 3         | 0   | 0  | 0         | 0          | 0    | 43  |
| その他          | 311      | 3         | 0   | 0   | 0         | 0          | 0    | 314   | その他       | 56       | 0         | -2  | 0  | 0         | 0          | 0    | 54  |

出所：国土交通省 国際線就航状況をもとに集計

注) 冬ダイヤ（2018年10月～2019年3月）の路線数であるため、下表における2018年の新設・増便スケジュールには表れない路線が存在する。

表 19 2018年における主な国際航空路線の新設・増便のスケジュール

| 期間    | 路線               | 航空会社            | 分類 | 1週あたり |
|-------|------------------|-----------------|----|-------|
| 1月4日  | 関西＝清洲（韓国）        | イースター航空         | 新設 | 3便    |
| 2月15日 | 成田＝メキシコシティ       | 全日空             | 新設 | 7便    |
| 3月2日  | 羽田＝香港            | ドラゴン            | 新設 | 7便    |
| 3月2日  | 中部＝マニラ           | ジェットスター         | 新設 | 4便    |
| 3月25日 | 福岡＝台北            | バニラエア           | 新設 | 7便    |
| 3月27日 | 関西＝クラーク（マニラ）     | ジェットスター         | 新設 | 3便    |
| 4月27日 | 関西＝ホノルル          | 日本航空            | 増便 | 7→14便 |
| 4月28日 | 中部＝台北            | ジェットスター         | 新設 | 3便    |
| 4月29日 | 関西＝台北            | ジェットスター         | 新設 | 4便    |
| 4月30日 | 関西＝務安（韓国）        | チェジュ航空          | 新設 | 8便    |
| 5月2日  | 成田＝ジャカルタ         | エアアジアX          | 新設 | 7便    |
| 5月3日  | 関西＝ヌーメア（ニューカドニア） | エアカドニアインターナショナル | 新設 | 2便    |
| 5月13日 | 関西＝バンクーバー        | エア・カナダルージュ      | 新設 | 3便    |
| 5月16日 | 成田＝ウィーン          | オーストリア航空        | 新設 | 5便    |
| 5月31日 | 中部＝仁川            | ティーウェイ航空        | 新設 | 7便    |
| 6月1日  | 成田＝バンコク          | ノクスコート          | 新設 | 7便    |
| 6月2日  | 成田＝モントリオール       | エア・カナダ          | 新設 | 7便    |
| 6月3日  | 成田＝アディスアベバ       | エチオピア航空         | 新設 | 4便    |
| 6月3日  | 成田＝ノボシビルスク       | S7航空            | 新設 | 1便    |
| 6月3日  | 中部＝バンクーバー        | エア・カナダルージュ      | 新設 | 3便    |
| 6月3日  | 関西＝台北            | ジェットスター         | 新設 | 5便    |
| 6月4日  | 中部＝台北            | ジェットスター         | 新設 | 3便    |
| 6月14日 | 成田＝台中            | マンダリン航空         | 新設 | 7便    |
| 6月21日 | 中部＝釜山            | エアプサン           | 新設 | 7便    |
| 7月3日  | 成田＝ナンディ          | フィジー・エアウェイズ     | 新設 | 3便    |
| 7月12日 | 中部＝セブ            | フィリピン航空         | 増便 | 3便→4便 |
| 7月21日 | 関西＝グアム           | チェジュ航空          | 新設 | 6便    |
| 7月21日 | 関西＝清洲            | チェジュ航空          | 新設 | 7便    |
| 7月31日 | 茨城＝仁川            | イースター航空         | 新設 | 3便    |

| 期 間    | 路 線           | 航空会社      | 分 類   | 1 週あたり |
|--------|---------------|-----------|-------|--------|
| 8月11日  | 羽田=仁川         | チエジュ航空    | 新設    | 2便     |
| 10月28日 | 関西=ドバイ        | エミレーツ航空   | 新設    | 7便     |
| 10月28日 | 成田=ヘルシンキ      | フィンエア     | 増便    | 7便→9便  |
| 10月28日 | 中部=台北         | スターフライヤー  | 新設    | 7便     |
| 10月28日 | 名古屋=ヘルシンキ     | フィンエア     | 増便    | 5便→6便  |
| 10月28日 | 関西=ダナン        | ベトナム航空    | 新設    | 7便     |
| 10月28日 | 中部=台北         | スターフライヤー  | 新設    | 7便     |
| 10月28日 | 関西=杭州         | 厦門航空      | 新設    | 5便     |
| 10月28日 | 成田=大邱         | チエジュ航空    | 新設    | 7便     |
| 10月29日 | 関西=バンコク       | ノックスクート   | 新設    | 4便     |
| 10月30日 | 中部=バンコク       | タイ・エアアジアX | 新設    | 7便     |
| 11月8日  | 関西=ハノイ        | ベトジェットエア  | 新設    | 7便     |
| 11月25日 | 関西=大連         | 春秋航空      | 新設    | 7便     |
| 11月30日 | 関西=西安         | 四川航空      | 新設    | 4便     |
| 12月7日  | 成田=バンコク ドンムアン | タイ・ライオンエア | 新設    | 7便     |
| 12月14日 | 関西=ホーチミン      | ベトジェットエア  | 新設    | 7便     |
| 12月22日 | 関西=香港         | ジェットスター   | 再開・増便 | 4便→7便  |
| 12月22日 | 羽田=ソウル        | チエジュ航空    | 新設    | 2便     |
| 12月22日 | 羽田=釜山         | チエジュ航空    | 新設    | 2便     |

出所：航空会社プレスリリースおよび関西エアポート新規就航情報などをもとに作成

## 【参考6】為替レートの推移

米ドル、香港ドル、台湾ドルは、2018 年下半期に向けて円安傾向となり、訪日に追い風となった。

一方で、ユーロ、英ポンド、豪ドル、中国人民元は、2018 年下半期に向けて円高傾向となり、訪日に向かい風となった。

表 20 為替レート推移

### 月平均Telegraphic Transfer Buying（「外貨」を「円」に交換するときのレート）

数値が小さくなるほど円高となり、外国人が訪日旅行をする際不利となる

| 時点   | 米ドル | ユーロ   | 英ポンド  | 豪ドル   | 香港ドル | 台湾ドル | 中国<br>人民元 | タイ<br>バーツ | 韓国<br>ウォン |       |
|------|-----|-------|-------|-------|------|------|-----------|-----------|-----------|-------|
| 2017 | 1月  | 113.8 | 120.6 | 137.6 | 83.8 | 14.4 | 0.273     | 16.5      | 3.16      | 9.55  |
|      | 2月  | 112.1 | 118.9 | 137.3 | 84.6 | 14.2 | 0.271     | 16.2      | 3.15      | 9.70  |
|      | 3月  | 112.0 | 119.2 | 135.5 | 84.1 | 14.1 | 0.269     | 16.1      | 3.16      | 9.78  |
|      | 4月  | 109.1 | 116.5 | 135.0 | 81.1 | 13.7 | 0.274     | 15.7      | 3.12      | 9.54  |
|      | 5月  | 111.3 | 122.6 | 141.0 | 81.4 | 14.0 | 0.266     | 16.0      | 3.18      | 9.79  |
|      | 6月  | 109.9 | 123.0 | 138.0 | 81.7 | 13.8 | 0.271     | 16.0      | 3.18      | 9.63  |
|      | 7月  | 111.4 | 127.9 | 142.0 | 85.5 | 14.0 | 0.268     | 16.3      | 3.25      | 9.73  |
|      | 8月  | 108.9 | 128.4 | 138.6 | 85.1 | 13.6 | 0.273     | 16.2      | 3.23      | 9.54  |
|      | 9月  | 109.7 | 130.4 | 143.1 | 86.2 | 13.7 | 0.270     | 16.6      | 3.26      | 9.60  |
|      | 10月 | 112.0 | 131.4 | 145.2 | 86.1 | 14.0 | 0.263     | 16.8      | 3.32      | 9.78  |
|      | 11月 | 112.0 | 131.0 | 145.3 | 84.1 | 14.0 | 0.264     | 16.8      | 3.35      | 10.05 |
|      | 12月 | 112.0 | 132.2 | 147.5 | 84.4 | 14.0 | 0.263     | 16.8      | 3.38      | 10.23 |
| 2018 | 1月  | 109.9 | 133.8 | 149.4 | 86.3 | 13.8 | 0.263     | 17.0      | 3.40      | 10.20 |
|      | 2月  | 107.0 | 132.0 | 147.1 | 83.1 | 13.4 | 0.268     | 16.8      | 3.36      | 9.83  |
|      | 3月  | 105.1 | 129.4 | 144.2 | 80.4 | 13.1 | 0.273     | 16.5      | 3.31      | 9.71  |
|      | 4月  | 106.4 | 130.6 | 147.5 | 80.7 | 13.3 | 0.271     | 16.8      | 3.36      | 9.88  |
|      | 5月  | 108.7 | 128.2 | 143.9 | 80.6 | 13.6 | 0.270     | 17.0      | 3.35      | 10.01 |
|      | 6月  | 109.0 | 126.9 | 142.2 | 80.5 | 13.6 | 0.271     | 16.7      | 3.31      | 9.88  |
|      | 7月  | 110.4 | 128.7 | 142.7 | 80.5 | 13.8 | 0.272     | 16.3      | 3.27      | 9.74  |
|      | 8月  | 110.1 | 126.8 | 139.1 | 79.5 | 13.7 | 0.274     | 15.9      | 3.28      | 9.72  |
|      | 9月  | 110.9 | 128.9 | 142.1 | 78.5 | 13.9 | 0.273     | 16.0      | 3.35      | 9.81  |
|      | 10月 | 111.8 | 128.1 | 142.8 | 78.2 | 14.0 | 0.271     | 16.0      | 3.37      | 9.78  |
|      | 11月 | 112.4 | 127.3 | 142.3 | 80.1 | 14.1 | 0.270     | 16.1      | 3.36      | 9.87  |
|      | 12月 | 111.5 | 126.4 | 138.5 | 78.9 | 14.0 | 0.272     | 16.0      | 3.36      | 9.83  |

出所) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング 外国為替相場をもとに作成

※韓国ウォンは 100 ウォンあたりのレート